

第七十三回
帝國議會
貴族院

國家總動員法案特別委員會議事速記録第二號

昭和十三年三月十九日(土曜日)午前十時
十八分開會

○委員長(子爵渡邊千冬君) 開會致シマス

○水野鍊太郎君 ドナタモ質問ガナイヤウ
デスカラ、私ハ大體ハ分ッテ居リ マスケレ
ドモ、試ミニ伺ヒタイノデアリマス、此ノ
法律案ヲ見マス、「勅令ノ定ムル所ニ依リ」
若シクハ「勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト云フノガ
三十二カ三アルノデスネ、ソレデチヨット餘
リ勅令々々ト云フモノダカラ、世間ニ「シ
ヨック」ヲ與ヘタヤウニ思フノデス、併シ私
ハ此ノ「國家總動員法案施行要綱」ト云フモ
ノヲ拜見シマシタガ、之ニ依リマス、此
ノ所謂勅令デ定ムベキコトガ多クハ法律ノ
範圍内ニ於ケル施行上ノ命令ノヤウニ思フ
ノデアリマス、即チ此ノ法律ヲ施行スル爲
ニ必要ナル態様、手續、方法ト云フモノヲ
定メルノガ多イヤウデス、尤モ其ノ中ニ重
大ナコトモアリマスガ、大體ニ於テ所謂法
律上憲法九條ノ法律ヲ執行スル爲ニ必要ナ
ル命令ト云フ、アノ中ニ入ルノガ多イヤウ
デアリマス、而シテ委任命令ト云フコトニ
付テ大分議論ガアリマシタガ、委任命令ト
云フノハ、是ハ通俗ノ言葉デアッデ、法律上

ノ言葉デハナイノデアリマスガ、即チソレ
ハ立法事項、法律ヲ以テ定ムベシト憲法ニ
定メテアル其ノコトヲ勅令ニ讓ルト云フコ
トデアリマシテ、之ヲ通俗ニ委任命令ト云
フノデアリマス、此ノ中ニモ所謂委任命令
ト云フモノニ屬スルモノガ無論アリマス
ケレドモ、ソレヨリモ寧ロ執行命令ガ多分ニ
含ンデ居ルヤウデゴザイマス、尤モ此ノ法
律ノ作り方ハ軍需工業動員法デモ、其ノ他
ノ法律デモ、サウ云フ執行命令ニ屬スルモ
ノハ必ズシモ勅令ノ定ムル所ニ云々ト云フ
コトハ書カナイデモ宜カッタデアリマス、
今迄ノ立法ノ作り方ハ、近年大分サウ云フ
立法例ガアルヤウニナリマシタガ、必ズシ
モソレハ勅令ノ定ムル所ニ依リト書カナイ
デモ執行命令ニ屬スルモノナラバ當然政府
ガ命令ヲ發シ得ルノデアリマス、又執行命
令デナクシテ、所謂行政命令ト云フモノモ
當然政府デ發布シ得ルノデアリマス、ソレ
故ニ、其ノ元ノ法律ニハ最後ノ條ニ法律施
行ノ爲ニ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ムト云フ一條ヲ置ケバ濟ンダノデス、サウ云
フ譯デアリマスガ、此ノ法律ガ餘リ勅令々々
ト斯ウ書イタモノダカラ、如何ニモ所謂

白紙委任狀ヲ議會カラ政府ニ提出シタヤ
ウナ譯デ政府ガ勝手ニ色ニナ命令ヲ作ルノ
デアラウ、ソコニ人々ガ危險ヲ感ジテ居ル
ヤウニ思フノデアリマス、サウ云フ譯デア
リマスガ、ソレハドウデセウ、政府ノ御考
ヘハ……、サウ云フ譯デヤナイカト私ハ思
フノデス

○國務大臣(鹽野季彦君) 御答ヲ致シマス、

誠ニ御意見ノヤウニ本法ノ規定ヲ見マスル
ト云フト、勅令ニ依ルト云フ文言ガ殆ド各
條ニ入ッテ居リマスルノデ、如何ニモ是ガ目
ニ付キマスルノデアリマスガ、本法ガ規定
致シテ居リマスル所ハ國家總動員ノ目的ヲ
達スル爲ニ、其ノ大綱ヲ取りマシテ規定致
シテ居リマスルノデ、ソレハ軍需工業動員
法、或ハ昨年ノ臨時立法デアリマシタル諸
法律、若シクハ古イ所デハ徵發令、其ノ他
ノ法律ニ規定致シテアリマスル所ヲ綜合統
一シテ大綱ヲ本案ニ總括致シマシタ爲ニ、
其ノ細カイ規定ハ勅令ニ讓ルヲ適當ト考ヘ
タノデアリマス、殆ド各條項ニ勅令ニ依ル
ト云フ文言ガ入ッタノデアリマス、併シナガ
ラ御説ノヤウニ此ノ勅令ノ内容ハ施行要綱
トシテ掲ゲデアリマスルヤウニ、其ノ大部

分ハ法律ヲ施行スル爲ノ規定ニ屬スルコト
ガアルノデアリマス、是ハ憲法第九條前段
ニ依リマスル執行命令トシテ出來ルコトデ
ゴザイマスガ、供シナガラ又臣民ノ義務ニ
關係スル分ニ付デモ規定ヲ要スルモノガ想像
セラレルノデアリマス、殊ニ戰時ノヤウナ
事態ノ變化ノ多キ際ニ處シマスルニハ、矢
張り只今ヨリ豫知シ得ザル所ノ事項モ考ヘ
テ置カナケレバナラナイト云フヤウナ關係
カラ、廣ク勅令ヲ以テ定メルト云フ規定ヲ
置イタ方ガ適當デアアル、斯様ニ考ヘテ出來
テ居ル次第デゴザイマス、唯其ノ文句ガ多ク
アルガ爲ニ、一般世人ハ如何ニモ所謂委任
命令ナルモノガ、非常ナ廣範圍ノ分量ヲ以
テ出ルモノデハナイカト云フヤウニ想像サ
レルノトハ餘程趣キヲ異ニシテ居ルト考ヘ
ルノデアリマス

○水野鍊太郎君 分リマシタ

○委員長(子爵渡邊千冬君) 御質問ガナケ

レバ休憩ヲ致スヨリ仕方ガアリマセスガ、
御質問アリマセスガ

○山岡萬之助君 只今委任命令ノ問題ガ出
マシテゴザイマスガ、私ハ順序トシテ、總
理大臣カラ先ヅ大綱ヲ承ッテ、次第ニ進ミタ

イト考ヘマスガ、丁度サウ云フ問題ガ出マシタカラ、總理大臣ノ御見エニナル迄、其ノ問題ヲ伺ヒタイト存ジマス、委任命令ト云フモノガ、只今水野委員カラモ御述ベニナリマシタヤウニ、別ニ憲法ヲ明示セラレテ居ルモノデハナイノデアリマス、或ハ憲法實施ノ際ニハ委任命令ト云フヤウナ如キモノハ、法律事項トシテ憲法上出來ナイモノデアルト云フ議論サヘアツク、併シソレデハ我が憲法ノ根本ハ、憲法第九條ニ於テ獨立シテ治安ノ爲又ハ國民ノ福利ヲ増進スル爲勅令ガ出セル獨得ナ規定ガアルノデアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラシテ、既ニ國民福利乃至ハ秩序ニ關シテ、獨立シテ大權命令ガ出マス以上ハ、法律事項ト雖モ、法律ガ根本ヲ規定シテ、之ガ内容ニ付テ或一部ハ勅令ニ委任スルト云フコトハ蓋シ適當デアル、斯ウ云フ風ナ考方カラ、段々ト委任命令ノ範圍ト云フモノガ擴大サレテ來テ居ルト私ハ考ヘルノデアリマス、ソレデアリマスルカラ、委任命令ト云フモノノ出ルコトガ、憲法ノ上ニ於テ決シテ之ヲ論議スベキモノデハナイ、唯委任命令ガ如何ニモ一ツノ法律ニ多イト云フコトニナリマスト云フト、ソレハ立法上乃至ハ政治的ニ見テ宜クナイ立法デハナイカ、第二章ニ關

スル限り成ルベク法律ヲ以テ決メルト云フコトガ憲法ノ精神ニ合フノダカラ斯ウ云フ風ナコトニナルト思フノデアリマス、ソコデ委任命令ヲ出シマシタ場合ニ於テ、其ノ範圍ト云フモノハ何トシテモ此ノ根本精神以上ニ出ル譯ニハ行カスト思フノデアリマス、假令法律ニ、勅令ニ依ッテ定ムル所ニ依リ云々トアリマシタ所デ、其ノ法文ガ示シテアル事項以外ニ出デテ立法事項ヲ規定スルコトハ決シテ出來ナイト思フノデアリマス、只今司法大臣ノ御答ニハ斯ウ云フ非常立法デアッテ、ドウ云フコトガ起キテ來ルカ豫測ハ出來ナイ、從ッテ義務ニ關スル規定ヲモセナケレバナラヌカラ勅令ニ書イテアル、斯ウ云フ御説明デアリマスガ、ソコノ所デ多少ノ疑義ガアリマスルノハ、其ノ法文ガ明示シテ居ル所ノ内容以外ニ互ッテ尙義務付ケルコトガ出來ルカ、斯ウ云フ點デアリマス、先ヅ其ノ點ヲ一ツ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(鹽野季彦君) 御答ヲ致シマス、

委任命令ノ適法デアルト云フコトハ、法律ニ規定致シテアリマスル範圍内ニ於テ命令ニ讓ル、其ノ大本ハ法律ニ規定シテアツテ、命令ハソレニ關係シテ規定ヲ致シマスル爲、命令ハ即チ法律ノ内容デアルト云フ解釋カラ適法ト言ハレテ居ルコトハ誠ニ御意見ノ

通りデアリマス、本案ニ於キマシテモ各本條ニ於キマシテ、臣民ニ負ハセル所ノ義務ノ範圍ヲ確定致シテ居リマス、是ヨリ出ズル委任命令ハ此ノ範圍ヲ出ル譯ニハ相成ラヌノデアリマス、各本條デハ義務ヲ確定致シテ居リマスルガ、委任命令ノ書キマスル所ハ、成ルベク必要ニ應ジ得ル程度ニ於テ各本條ノ義務ヲ制限シテ行クト云フヤウナ趣旨デゴザイマス、尙又戰時ノヤウナ變轉豫測シ得ザル事態ニ處スル爲ニ今ヨリ想像ノ出來ナイ狀態モアリハセヌカ、左様ナ狀態ニ備フル爲ニ細カイ規定ハ勅令ニ讓ルト云フ方ガ適當デアル、斯ウ云フヤウナ趣旨デゴザリマシテ、決シテ本法ニ書イテアリマスル義務ノ範圍ヲ越エルト云フヤウナコトハ毛頭考ヘテ居ルノデハゴザイマセヌ

○山岡萬之助君 只今法相ノ御説明ニ依リ

マシテ、立法ニ依ッテ義務付ケラレタル範圍ニ於テ適當ナル規定ヲ爲ス、斯ウ云フ御説明ハ了承致シマシタ、此ノ法案ノ審議ニ於テ衆議院ノ論議セラレタル點ハ、委任命令ノコトニ關シテ頗ル汎ク論議セラレテ居ルノデアリマス、委任命令ト云フモノガ大體右ニモ述ベマシタノデアリマスガ、元來委任ヲナス所ノ機關ガ出來ルコト以上ニ出ルコトノ出來ナイコトハ論ヲ俟タナイ、ソレ

故ニ委任ノ法律ニ於テ項目ヲ示シタ範圍ニ止ルベキモノデアルト云フコトニナルノデアリマス、茲ニ本案ノ第四條ニアリマスル戰時ニ際シテ必要アルトキニ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトガ出來ル、斯ウ書イテデアリマスル、此ノ勅令ト云フモノハ此ノ範圍ニ於テ帝國臣民ノ全體ヲ、ドレダケノモノガ徵用スルニ適當ダト云フコトヲ書ク、或ハ之ニ對スル給與ノコトヲ書クト云フヤウナコトニ止リマスルカラ、是ハ決シテ臣民ノ權利義務ヲ制限スルコトニハナラナイ、憲法第二章臣民ノ權利義務ヲ制限スルコトカラ立法ヲ要スルト云フコトニナル、既ニ斯ウ云フ廣イ範圍デ臣民ノ義務ヲ制限シテ、義務付ケテ、サウシテ憲法第二章ノ關係ニ制限ヲシテ居ル以上、別ニ勅令ニ定ムル所ニ依リト云フコトヲ書ク必要ハ全クナイノデ、之コソ施行勅令デ事ハ足りテ居ルノデアリマス、詰リ義務ノ範圍ヲ只今モ法相ノ御説明ニナッテ居ルヤウニ減縮スルノデアアル、減縮スルノニ法律ヲ要スル所以ハナイ、ダカラシテ法律ニ依ッテ茲ニ委任ヲ受クルコトハ餘リ意味ヲ成サナイ、是ハ結局内容ニナリマスルト云フト十六歳以上六十歳ト申シマスガ、其ノ範圍ノ主トシテ男子デアリマスルガ、女子モ亦

職業婦人ハ之ヲ徵用スル斯ウ云ツタコトニ
ナツテ、ソレヲノ事ヲ書クノデアリマス、全
國民ニ個々ニ義務付ケテ居ル、其ノ一部ノ
人達ヲ徵用スルト云フコトデアレバ別ニ勅
令ノ定ムル所ニ依ルト云フコトヲ書イテ、
立法ノ委任ヲ受ケルト云フコトハ必要ナイ
ト考ヘマスルガ、ソレニ對シマスル政府ノ
御所見ヲ伺ヒマス

○國務大臣(鹽野季彦君) 御意見モ至極御
尤デアリマスルガ、本條ハ軍需工業動員法
ノ第九條ノ規定ヲ殆ド其ノ儘持ッテ來ツタノ
デアリマシテ、徵用スベキ臣民ノ性別、年
齡技能等ニ付キマシテ、勅令ニ讓ル趣旨デア
リマスル、沿革的ニ此ノ規定ガ出來テ居ル
ノデアリマス

○山岡萬之助君 私ハ本案ニ關シマシテ總
理大臣ニ二三ノ點ヲ承リタイト考ヘマスル
ガ、近代ノ戰爭ガ武力戰ニ止リマセヌノ
デ、國家ノ最大ノ力ヲ發揮シテ、サウシテ
國力ノ全部ヲ擧ゲテ、戰捷ノ效果ヲ收メル、
所謂國力戰ニ進シダノデアリマス、其ノ場
合ニ於テ國民ノ生活ハ近時極メテ複雑ニ
ナツテ參リマシタカラシテ、人的物的ノ資源
ヲ統制シテ、サウシテ之ヲ一ノ方向ニ向ハ
シメテ、力強キ活動ヲナシマシテ、即チ國
家ノ動員計畫ト云フモノハ何トシテモ今日

ノ世界時局カラ見テ之ヲ必要トスル、斯ウ
云フコトニ於テ私ニ於キマシテモ、國家ノ
動員計畫ト云フモノノ必要デアルト云フコ
トハ、十分ニ了承致シテ居ルモノデアリマ
ス、加之我が國ノ過去ヲ振返ッテ見マシテ
モ、大正七年ニ於テ、ソレ以前ニ於ケル國
家ノ徵發トカ云フヤウナ規定デハ足りナイ
ノデ、軍需工業動員即チ軍需品ノ工業方面
ニ關シマスル動員規定ヲ致シ、其ノ後ニ於
テ資源ノ調査、調査法ヲ制定シテ資源ヲ調
査シ、ソレニ依ッテ人的物的ノ資源ヲ調査
シ、サウシテ一朝有事ノ際ニ備ヘテ居リマ
スル規定ハ昭和ノ初ニ於テ既ニ定メラレテ
居ルノデアリマス、サウ云フ次第デアリマ
スカラシテ、此ノ國家動員計畫ノ必要デア
ルト云フコトハ恐ラク今日何人モ疑フ者ハ
ナカラウト思フノデアリマス、然ル所日支
事變ガ勃發致シマシテ、臨時立法ニ依ッテ、
資金若シクハ經濟的ノ事業、殊ニ輸出入等
ニ付テノ臨時立法ガ出來マシテ、可ナリ廣
イ範圍ニ於テ國家ノ動員計畫ガ出來ルコト
ニナツテ居ルノデアリマス、デ本案ガソレ以
上ニドレダケ出テ居ルカ、斯ウ云フ所ヲズッ
ト見マスルト云フト、項目トシテハソレ以
上ニ互ル部分ハサウ澤山ハナイノデアリマ
ス、然ルニ世人ハ何カエライ法律ガ出テ來

タヤウニ考ヘテ居ル、茲ニ此ノ法律ニ付テ
多少ノ議論ヲシナケレバナラヌ譯合デア
ルノデアリマス、私ハ今日ノ如キ特段ナル非
常時、斯クノ如キ場合ニ於キマシテハ彼此
ノ議論ト云フコトハセナイデ、總テノ國家
施設ニ對シテ我々モ協力協賛ヲ致スト云フ
コトガ大切ダト考ヘマスルノデ、私ノ如キ
ハ色々ナ點ニ於テ論ズベキモノガナイトハ
申サスノデアリマス、然ルニ今日迄別段論
議致サナカッタ、唯此ノ法案ニ對シテ何ガ故
ニ議論スルカト申シマス、只今申上ゲタヤ
ウナ次第デアリ、且又衆議院ニ於テ測ラズモ
違憲論ガ闘ハサラレテ、徹頭徹尾憲法違反ノ
法律デアルト議論シテ居ル、議事ノ最終ニ
至ル迄尙且左様ナ議論ヲ致シテ居ルノデア
リマス、而シテ此ノ法案ハ衆議院ヲ通過シ
テ、原案ノ儘通過シタ、本院ニ於テ其ノ法
案ニ對シテ直チニ所謂非常時ノ舉國一致ヲ
シテ、直チニ協賛ヲ與ヘル、世人ハ之ヲド
ウ考ヘルカ、世人ハ姑ク措イテ、國家全體
トシテドウナルノデアアルカ、又本院ノ任
務トシテモ考ヘナケレバナラヌノデアリマ
ス、私ハ是レ故ニ衆議院ニ於テ憲法違反ノ法案
ナリトシテ議論セラレマシテ、其ノ議ガ盡
キテ居ラスノデアリマスカラ、其ノ議ヲ盡
シテ、本院ニ於テ之ヲ通過セシムル以上

ハ、憲法違反ノ法律ニアラズト云フコトヲ
ハッキリト世人ニ認識セシメテ、即チ國民ヲ
シテ嚮フ所ヲ本當ニ理解セシメナケレバナ
ラスト云フ考カラ申述ベルノデアリマス、
ソノナ次第デアリマスルカラ、今後私が述
ベマスコトニ付キマシテハ、政府委員ニ
モ御尋シタイト思ヒマスケレドモ、ドウゾ
率直ニ、虚心坦懷ニ御答ヲ願ヒタイト存ジ
マス、一體此ノ政治ノ基本ニ關シマスルコ
トデアリマスガ、事新シク申ス迄モナク憲
法ニ從ハナケレバナラヌ、斯ウ云フコトハ
今始ツタコトデハナイ、然ルニ先年來國體問
題ガ出テ參リマシテ、サウシテ憲法問題ガ
ヤカマシクナツテ、ソレ以前ニ於テ「ロンド
ン」條約デ統帥權ノ干犯ト云フコトガ議會
ニ於テ頻ニ議論セラレテ、又不戰條約ニ於
テモ人民ノ名ニ於テ、ト云フ條約ニ調印ヲ
シタ、之ニ付テ非常ナ問題ガ起キタコト
モ、今更申ス迄モナイコトデアリマス、サ
ウ云フ風ニ此ノ立法乃至ハ條約ト云フコト
ニ於テ、法律論ヲ闘ハスト云フコト程、實
ニ詰ラスコトハ私ハナイト思フノデアリマ
ス、憲法ハ勿論國民ノ深ク尊重スベキモノ
デアアル、又遵守スベキモノデアアル、政治ヲ
爲ス場合ニ於テ憲法ヲ離レタイケナイコト
ハ分リ切ッテ居ル、ソレデアアルナラバ十分ニ

審議ヲシテ、憲法上ノ議論トカ、或ハ法律上ノ議論トカ云フヤウナコトガ、大議論ノ出ナイヤウニスルト云フコトハ、私ハドノ部面ニ於テモ大事ナコトダと思フ、然ルニ近頃ドウ云フモノデアリマスルカ、此ノ關係シテ居ル所ノ軍需工業動員法ノ當時ノ審議ヲ見マシテモ、今日ノ法案若シクハ審議ノ狀況カラ見マスルト云フ、如何ニモ其ノ適切ナル法律論ガ闢ハセラレテ居ルノデアアル、今日ノ此ノ總動員法ニ於ケル論議ヨリモ、モットハッキリト法律論ガ闢ハセラレテ居リマス、其ノ他ノ法律案ニ致シマシテモ、既ニ此ノ議會、現ニ本會議ニ於テ彼此ト論議スベキ點ガアル、サウ云フモノノナイヤウニ、法律論ナゾハサウエラクセヌデモ宜シイヤウニ、政府案ト云フモノハ左様デナケレバ私ハナラヌト思フノデアリマス、デアリマスルカラシテ、法律ノ此ノ關係ニ付キマシテモ、モウ少シ憲法ノ規定乃至ハ其ノ他ノ法制ノ關係ヲ明カニシテ行クト云フコトガ私ハ重要ダと思ヒマス、此ノ頃世ノ中ハ兎角經濟部方面ガ強ク見ラレテ、固ヨリ國民ノ生活ニ直接ナル物質關係デアリマスルカラ、大切ナコトハ論ヲ俟チマセヌ、其ノ部面ノ方ヘ走ッテ、法律ノ關係ノ如キハ、多少閑却スル

嫌ヒガナイデハナイカ、即チ今日ノ現象ヲ見マスルトサウ云フ風ニ見エル、而シテサウ云フ議論ヲ斯クノ如キ場所ニ於テ闢ハスト云フコトハ、私ハ最モ好マヌノデアリマス、ドウカ是レ故ニ此ノ點ハ少シ餘事ニ互リマスガ、今後法制局、其ノ他ニ於テ十分ナル審議ヲ盡シテ、從前ノヤウニ行キタイコトヲ私ハ望ム者デアリマス、サウ云フヤウナ意味合カラ致シマシテ、今日憲法ノ問題ガヤカマシクナッテ參リマシテ、サウシテ政治ノ方針ヲ、國體乃至憲法ニ從ッテ進ムモノデアアル、其ノ政治ノ指導方針ハ正ニ茲ニ在ルト云フコトヲ、近衛首相ハハッキリト御説明ニナッテ居ルト云フコトハ、誠ニ結構ナコトダト私ハ思ッテ居リマス、其ノ點ハ此ノ七十一議會ニ於キマシテ、施政方針ヲ御述ベニナルニ當ッテ、百般ノ政策ヲシテ我が尊嚴ナル國體ノ精髓ニ歸一セシメル、サウ云フ御言葉ヲ以テ述ベラレテ居ルノデアリマス、而シテ其ノ後議會ニ於ケル御説明ヲ見マスルト云フト、各場合ニ其ノ御精神ガ言葉ノ上ニ現レテ居ルノデアリマス、殊ニ衆議院ニ於キマスル本案ノ御説明ニ當リマシテ、我が國ノ政治ノ衝ニ當ッテ此ノ國政運用ヲ致シテ參ル根本ノ精神ハ、何處迄モ憲法ノ條規ニ依ッテ議會ヲ尊重シ、飽ク迄憲法

ノ範圍ニ於テ之ヲ行ッテ參ラヌケレバナラヌノデアアル、我が國ニハ儼トシテ帝國憲法ガ在リ、上ニ聖天子ガ在リ、本案ノ實行上不安ノナイコトヲ御述ベニナッテ居リマス、ソレカラ更ニ又本院ノ豫算委員會ノ席上ニ於キマシテ、憲法ヘ申ス迄モナク萬古不易ノ我が國體ヲ昭示シ給ウテ居ルモノデアアル、ソレト共ニ此ノ萬邦無比ノ國體ヲ基礎トシテ統治權行使ノ形式態様ヲ定メラレテ居ルノデアアル、是レ故ニ實際ノ政治ハ何處迄モ憲法ノ條章ヲ遵由スベキモノデアルト云フコトヲ御述ベニナリ、且進ンデ憲法ヲ解釋スルニ當ッテハ、憲法ノ由來ヲ深く尋ネテ其ノ本トスル精神ヲ明カニシ、而シテ此ノ國體ヲ愾リナイヤウニ致サムケレバナラス、斯ウ云フ御趣旨ヲ御述ベニナッテ居ルノデアリマス、斯クノ如ク國策ヲ立ッテ政治ヲ行ヒマスル上ニ、國體ヲ基調トシテ憲法ノ條章ニ從フコトヲハッキリトセラレタト云フコトニ付テ、私ハ深く敬意ヲ表スルモノデアリマス、近頃ノ歷代内閣ハ此ノ事ニ相當御努メニナツタノデアリマスガ、何トナク國策ノ樹立、政治ノ遂行ガ憲法ニハッキリト從ッテ行クト云フヤウナコトニ付テ、若シクハ國體ト云フコトヲ土臺トシテ進ムト云フコトニ付テ、人々ノ頭ニ感ズルコトガ足ラナカッ

タ、之ヲ強イ言葉デ申シタラ、本氣ニサウ云フコトヲヤッテ居ルト云フ風ニ人ガ感じナイ、是ハ政治ヲスル上ニ於テ誠ニ物足ラヌ所デアリマス、然ルニ此ノ度ハ左様ニハッキリト七十一議會ニ於テ、國體ノ精髓ニ國策ヲ歸一セシメル、而シテ常ニ其ノ御意思ヲ以テハッキリト御述ベニナッテ、我々ヲシテ國體乃至憲法ノ根柢ヨリ政治ヲスルト云フコトガ理解出來マシテ、之ニ依ッテ國民ガ如何ニ論議致シマシテモ、如何ニ爭ヒマシテモ、歸スル所ハ憲法及憲法ヨリ出デタル所ノ法規ノ關係ニ依ッテ裁斷サレルノデアルト云フコトガ分リマス、サウスレバ世ノ中ニ不安ト云フモノガナクナル筈デアリマス、世ノ中ノ不安ト云フモノハ何處ニ止ルノデアアルカ、止ル所ヲ知ラナイカラ不安ニナル、爭ハ必ズアリマス、争ッテ而シテ止ル所ガアリマスルナラバ不安ハナイ、私ハ今日ノ不安ト云フモノハ、左様ナ根柢ガハッキリシテ居ナイ結果デアルト考ヘマス、躍進日本ノ今日ノ姿ト云フモノハ、ドウシタッテ躍進スルカラ摩擦ガ起キマス、摩擦ノ起キルト云フコトモ是ハ已ムヲ得ヌ、故ニ改革ヲドウシテモセナケレバナラス、庶政ヲ一新シテ行カニヤナラスト云フコトハ、嘗テノ内閣ガ御發表ニ

ナツタ、ドウシテ見タ所デ、或程度迄改革ヲシナケレバ此ノ状態ハ止マナイノデアリマス、故ニ速カニ改革ヲシテ躍進日本ノ姿ヲハッキリトスルガ私ハ宜イト思ヒマス、此ノ經過スル間ニ於テ必ズ相剋摩擦ガ起キル、其ノ結末ヲ何處ヘ持ッテ行クノダト云フコトガ、玆ニハッキリシテ來マスルナラバ、不安ト云フモノハ、少クトモ大キナ不安ハ除去出來ルト思フノデアリマス、サウ云フ點ニ於テ、私ハ右總理大臣ノ御述ベニナツタ所ニ對シマシテ深く喜ンデ居ル一人デアリマス、殊ニ今日ノ如ク此ノ思想界ヤ政治界ガ誠ニ混沌トシテ居ル、此ノ秋ニ當ッテ斯クノ如キ次第デアリマスルコトハ結構ナコトデアリマス、此ノ考ヨリ致シマシテ、私ハ本案ヲ何處迄モ協賛ヲ與フベキヤ否ヤニ付テ審議ヲスルニ付テハ、憲法ニ外レテ居ラスモノデアルカ、或ハ外レテ居ルノデアルカ、外レテ居ルト云フナラバ、其ノ點ハ宜シク修正スベキデアル、外レテ居ラスト云フナラバ、原案通過然ルベキモノデアアル、斯様ナ意味ニ於テ玆ニ申述ベヨウト云フ爲ニ、總理ノ今日迄御述ベニナツタ所ヲ玆ニ申上ゲタ次第デアリマス、之ニ付テハ極メテハッキリ致シテ居リマスルカラ、之ニ對シテ御陳述ヲ煩ス必要ハナイ、左様ナ次第デ、私ガ

是カラ御尋ネ致シマスルコトハ、其ノ外ノ事柄ヲ御尋ネ致スノデアリマス、ソレハ本案ガ御提出ニナツタ以後ニ於テ、何トナクエライ法律ガ出テ來タノダ、俗ナ言葉デ申セバ、サウ云フ風ナ世人ガ感じヲシタ、此ノ不安ト云フモノヲ除去スルト云フコトガ本案審議ニ於テ私ハ必要ダと思フ、其ノ二三點ヲ私ハ伺フノデアリマス、先ヅ第一點ハ、近衛總理ハ衆議院ニ於キマシテ、十數年前ヨリ審議ヲ盡シタ法律デアッテ、我が國獨得ナル立法デアアル、斯ウ云フ御説明ガ致サレテ居リマス、實際ニ於キマシテ曩ニ申述ベマシタヤウニ、軍需工業動員法ガ大正七年ニ寺内内閣ニ於テ制定サレマシテ、資源局ハ昭和二年ニ、資源調査法ハ昭和四年ニ制定セラレテ、サウシテソレニ依ッテ、人的、物的ノ資源ガ調査サレテ居リマシテ、可ナリソレカラ長イコトデアアル、處ガ本案ト云フモノガ其ノ位長ク調ベテ居ツタト云フニ拘ラズ、議會開會劈頭ニ於テ御提案ナラズシテ、二月ニナツテ中頃御提案ニナツタ次第デアリマス、此ノヤウナ國家ニ取ッテ極メテ重大ナル法案デアリマスカラ、議會開會劈頭ニ御提案ニナツテ、サウシテ各人ノ審議ニ便スルコトガ最モ適當デハナカッタカト思ヒマス、此ノ法案ガ議會開會シタ後ニ、院

外ニ於テ我々議員ニ其ノ要綱ト云フモノヲ御示シニナツテ御説明ニナツタ、サウ云フ要綱ヲ議會ガ開會サレテ御示シニナツテ居ルヤウナコトデアリマスルカラ、成案ト云フモノハ餘程後ニ出來タヤウニ思ハレル、斯クノ如キ重大ナル法案ガ長イコト御調べニナツテ居ツタ以上、議會ノ劈頭ニ御提案ニナラナケレバナラヌモノデアッタと思フ、ソレノ遅レマシタ點ニ關シマシテ、ドウ云フ御都合デアッタカ、一應御釋明ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(公爵近衛文麿君) 此ノ法案ハ嘗テ衆議院デ申述ベマシタヤウニ、特ニ我が國ノ國情ニ即シテ、獨得ノ特色ヲ發揮致シマスルヤウニ、各國ノ制度ノ長ヲ採リ、比較研究致シマシテ遂ニ此ノ法案トナツタノデアリマスガ、此ノ研究ハ相當範圍ガ廣汎ニ互ッテ居リマシテ、極メテ慎重ヲ要スルガ爲ニ、研究ノ上ニモ研究ヲ重ネ、慎重ノ上ニモ慎重ヲ期シマシタ結果、議會ノ劈頭ニ提案ヲ致スコトガ遅レマシテ、會期ノ半ニナリマシテ漸ク衆議院ニ提出致シ、貴族院ニ回付セラレマシタノハ今日ノ如キ會期誠ニ切迫シタ時ニナリマシテ誠ニ恐縮ニ存ジマス、併シ尙餘日モ多少ハアルノデアリマスカラ、出來ルダケハ御審議ヲ願ヒタイ

ト思ヒマス

○山岡萬之助君 次ニ本案ノ内容ヲ見マスルト云フト、現行ノ法規ト對比致シマシテ、第五條ノ國防ニ參加協力スル規定、第六條ノ勞働條件ノ命令、第七條ノ勞働ノ爭議ノ措置、第十四條ノ鑛業權等ノ使用又ハ收用第十七條、第十八條ノ事業ノ統制、第十九條ノ價格ノ統制、第二十條ノ出版物ノ制限禁止、斯ウ云フ風ナ規定デアリマス、之ヲ一ツノ法律ニ纏メ上ゲマスルコトガ固ヨリ此ノ法案ヲ施行スル上ニ於テ適當ナコトデアリマセウケレドモ、然レドモ此ノ内容ノ全體ヲ通ジマシテ、國家總動員ト云フ名稱ヲ附サレタモノデアリマスカラ、世ノ中デハ第二章ノ臣民ノ權利義務ノ全體ニ及ンデ居ルヤウナ感じヲ當時此ノ法案ガ世ノ中ニ出マシタ時ニ世人ハ感じタノデアリマス、然ルニ臣民ノ權利義務ノ第二章ノ規定中、本案ニ關シマスルモノハ矢張り所有權ノ憲法ノ第二十七條、ソレカラ臣民徵用ニ關スル何モノカノ規定、何分ノ規定、ソレカラ第二十九條ノ言論等ノ自由ニ關スル規定ニ止ッテ居ルノデアリマス、唯所有權ノ制限ノ範圍ト云フモノガ此ノ度ノ御提案ニナツテ居ル法案ニ依リマスルト云フト、資金ノ調整、ソレカラ事業ノ統制、ソレカラ物ノ價格ノ

統制ト云フ所アリノ規定ガ重大ナル關係ヲ有シテ居リマスルノデ、今日ノ經濟關係ハ不動産ト云フヨリモ寧ロ動産、動産ト云フヨリモ寧ロ債權債務、若シクハ株券等ノ關係ノ經濟關係ニナツテ居ルノデアリマス、固ヨリ國民精神ノ重要ナル部分ニ觸レテ居ルコトガ確カデアリマスガ、唯サウ云フ風ナ次第デ、第二章ノ臣民ノ權利義務ノ全體ニ及ブカノ如キ感ジヲ茲ニ與ヘマシタコトハ私ノ遺憾トスル一ツデアリマス、其ノ標題ト云フモノガ名ハ體ヲ現スト云フ行キ方カラ言ヒマスレバ、聊カ適當シテ居ナイ點ガナイトモ言ヘナイトモ思ヒマス、デ御提案ニナツタ際ニ斯クノ如キ臣民ノ權利義務ヲ廣ク制限スル所ノ法律デハアルガ、今日ノ時勢ノ上ニ何トシテモ必要デアアル、而モ憲法ノ三十一條ニ依レバ戰時事變ニ際シテハ大權ニ依ツテ如何ナルコトデモ出來ルノデアアルガ、大權ニ依ツテ既ニ如何ナルコトデモ出來ルナラバ、戰時事變ニ際シテ此ノ法案ヲ運用スルノデアアルカラ、實施規定ハ戰時事變ニ際シテ運用セラレルノデアアルカラ毫モ立法上差支ナイノデアアル、三十一條ガ、此ノ法案ノ正當性ヲ説明セムガ爲ニ論議ノ間ニ出テ參ツタノデアリマス、此ノコトハ固ヨリ第二章ノ制限規定ヲ爲ス場合ニハ當然ニ

論議ノ出テ來ル問題デアリマセウ、軍需工業動員法ガ審議セラレタ際ニ於テモ、衆議院ニ於テハ此ノ問題ハ矢張り三十一條ニ觸レテ議論ヲシテ居ルノデアリマス、デアアルカラ此ノコトハ今始ツタ問題デハナイノデアリマス、サウ云フ風ニ此ノ戰時事變ニ際シテ天皇大權ノ發動ト云フコトハアノ條文ノ關係カラ直チニ考ヘラレル、併シ三十一條ガアルカラト云ウテ立法ガ正當ツケラレルト云フコトニナルカナラヌカハ議論デアアル、之ヲ平タク考ヘマスレバ、憲法二十七條ヲ土臺ニシテ考ヘマスレバ、臣民ノ所有權ハ不可侵デアアル、併シ公益ノ必要ガアレバ法律ニ依ツテ制限ヲスル、斯ウ云フノデアリマスルカラシテ、平タク之ヲ見マスルト云フト、法律ニ依ツテ制限スルコトガ正當デアアル、唯戰時事變ニ際セバ大權ノ發動ヲ妨ゲナイト云フコトガ三十一條ニ規定セラレテアルニ止ツテ居ルノデアアル、サウ云フヤウナ譯デアリマシテ、此ノ關係カラ世間デハ、日本人ノ氣分ト云フモノハ皇室ヲ中心トシテ一朝有事ノ際ニ於テハ身命ヲ君國ニ捧ゲルノデアアル、サウ云フ考デアアルカラシテ財産ノ如キハモウ問題ハナイ、陛下ノ大命トアラバ如何ナルモノデモ君國ニ捧ゲルノデアアル、豈ニ法規ヲ以テ之ヲ強制スルノ必要ガアラウカ、我々

國民ノ愛國心ト云フモノハ決シテサウ云フモノデハナイ、斯ウ云フ規定ヲ拵ヘテ、サウシテ此ノ財產關係ヲ強制シテ行クト云フヤウナコトハ、甚ダ此ノ心持ニ合ハナイノデアアル、斯ウ云フ風ナトコガ我々モ廣ク耳ニスル所デアリマシテ、此ノ我ガ國民ノ尊イ愛國心若シクハ忠誠ノ心、此ノ心ヲ障害スルヤウナコトト云フモノハ、是ハ何トシテモ避ケナケレバナラヌコトデアリマス、是ハ私が申ス迄モナイコトデアリマシテ、近衛首相ノ疾クニ御承知ノコトデアリマス、私ハ之ヲ如何ナル場合ニモ政治上ニ此ノ國民ノ崇高ナル心持ヲ活用シナケレバナラヌト思ツテ居リマス、ソレデアリマスカラ此ノ立法ニ際シテ法規ヲ以テ拘束スルト云フコトニ依ツテ此ノ精神ヲ障害スルト云フヤウナコトガアリマスルナラバ、是ハ誠ニ國家ノ爲ニ取ラヌ所デアリマシテ、ソレガドウ云フ所カラ來タカト申シマスレバ、結局是ハ立法技術ニ於テ餘程私ハ注意ガ足りナカッタ點ガアルンデハナイカト思フノデアリマス、詰リ勅令ノ定ムル所ニ依リト云フノハ、段々先刻モ御話ノアリマシタヤウニ三十幾ツモアル、是コソ斯ウ云フ規定ヲシナクテモ、私ハ此ノ法案ヲ長イ間見マシタ、勅令ト云フモノヲ入レナイデモ宜イ所ガ澤山ア

ル、又勅令ノ眞ニ利イテ居ル規定モアル、ダカラ勅令ガ眞ニ利イテ働ク條文ハ宜シク入レナクチャナリマセヌ、サウデナイ所ハ入レナイデモ先キニ申シマスル憲法第九條ノ獨立命令、執行命令ト云フ我ガ憲法大權ノ、大權作用ノ餘程力ノ強イ所カラシテ十分補充ガ出來ルノデアアル、サウシテ補充シテ此ノ非常時ニ假ニ戰時事變ニ際シマシテ國ヲ舉ゲテ戰ハナケレバナラヌ時機ニ、假令多少其ノ勅令ガ立法事項ニ入ツタトシテモ、此ノ國民ノ忠誠ノ心ハ何人モ彼此云フ者ハ私ハナイト思フノデアアル、サウ云フ風ニシテ國民ノ忠誠ノ心ヲ毀傷シナイガ宜イ、然ルニ之ヲ何處迄モ包容シテ、寧ロ不必要ナル所迄包容シテ、國民ヲシテ左様ナ感ジヲ爲サシメルト云フコトハ、確カニ立法技術ガ此ノ法案ニ付テハ少シク足りナカッタノデハナイカ、先ニモ述べマスルヤウニ此ノ頃サウ云フ傾向ガ各案ニ對シテアルノデアアル、デ近衛首相ハ本案ノ提出ニ際シマシテ、愛國心ヲ元トシテ舉國一致デ進ミタイノデアアル、而シテソレガ此ノ法案ヲ圓滑ニ遂行スル所以デアアル、斯ウ云フ風ニ御説明ニナツテ居リマスルカラ、私が此處ニ申上ゲマシタコトハソレハ能ク承知シテ居ルコトデアラウカト思ヒマス、併シ國民ガサウ云フ風

ニ不安ナ考ヲ持ッテ居ルノデアリマスカラ、此ノ委員會ヲ通ジテ明カニシテ置クコトガ私ハ適當ダト思ヒマスルノデ、此處ニ此ノ質問ヲ致シマシタ、御答辯ヲ煩シタイ次第デアリマス

○國務大臣(公爵近衛文麿君) 此ノ法案ニ付キマシテ色々ノ世間ニ不安ヲ招キ、又衆議院ニ於キマシテモ種々ノ御議論ガアッタノデアリマス、是ハ政府トシテノ説明ノ足ラザル所モノ原因デアアルコト考ヘマスガ、併シナガラ衆議院ニ於キマシテ十分ニ論議ヲ重ネラレマシタル結果、大體政府ノ精神ノ存スル所ハ御了解出來タコト考ヘマス、一般ノ國民ニモ此ノ總動員法ナルモノガ如何ナルモノデアアルコト云フコトハ、今日デハ餘程理解ガ出來テ居ルト考ヘルノデアリマス、只今山岡サンノ御話ノヤウニ日本國民ノ忠君愛國ノ精神ト云フモノハ、是ハ世界ニ比類ノナイモノデアッテ、斯クノ如キ國民性ガアル以上ハ、斯クノ如キ法律ニ依ッテ非常ノ場合ニデモ、國民ノ權利自由ヲ制限スルガ如キ規定ヲ設クル必要ハナイデハナイカト云フ御話ハ、一應御尤デアリマシテ、屢、其ノ御論議ハ聞クノデアリマス、併シナガラ是ハ總動員法案ノ提出ニ際シテ申上ゲマシタヤウニ、此ノ總動員ハ國民ノ愛國心、國民ノ自

發的ノ協力ニ俟ッテ初メテ其ノ完全ナル目的ヲ達スルコトガ出來ル、完全ナル效果ヲ發揮スルコトガ出來ルノデゴザイマスケレドモ、從ッテ其ノ國民ノ協力ヲ容易ナラシムル上ニハ、我が國ノ國民性ノ忠誠ノ念、舉國一致ノ精神ト云フヤウナモノガ大イニ役立ツト思ヒマスケレドモ、併シナガラ唯ソレノミヲ以テシテハ今日ノ複雑ナル經濟組織、又社會組織ノ下ニ於キマシテ國民ノ人的、物的ノ資源ヲ總動員シテ、國民ノ全能力ヲ國防目的ノ爲ニ發揮セシメルト云フヤウナ目的ヲ達スル爲ニハ不十分デアルト考ヘルノデアリマス、經濟生活ニ於キマシテモ、ソコニ色々ノ利害ノ衝突ガアリ、矛盾モアル、是等ヲ自由ニ放任シテ置クト云フコトハ殊ニ戰時ノ際ニハ國民ノ全能力ヲ發揮スル上ニ於テ非常ナ支障ヲ起ス、從ッテ茲ニ強大ナル統制、強化ヲ必要トスルノデアリマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、單ニ國民ノ愛國心ト云フコトダケニ賴ルト云フコトハ、眞ニ總動員ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイノデアリマス、サウ云フ意味ニ於キマシテ、此ノ法案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス

○政府委員(青木一男君) 只今山岡サンノ御尋ノ中ニ、立法ノ技術ト致シマシテ強ヒ

テ勅令ノ定ムル所ニ依ルト云フヤウナ字句ガナクテモ運用出來ルノニ強ヒテ是等ノ字句ヲ用ヒタ爲ニ國民ノ不安ヲ増シテ居ルデハナイカト云フ點ノ御指摘ガアッタノデアリマス、誠ニ御尤ノ點モアルノデアリマス、先般水野委員カラモ御指摘ノアリマシタ如ク、此ノ勅令ノ中ニハ執行命令ニ該當スルモノモアリマスノデ、特ニ此ノ法律ノ委任ノ形ヲ探ラズトモ同様ノ目的ヲ達シ得ルモノモアルノデアリマス、從來ノ例カラ申上ゲマシテモ、此ノ種ノ規定ナクシテ運行シテ居ル例モ多々アリ、又勅令ト書カズニ單ニ命令ノ定ムル所ト云フ字句デ運行ヲシテ居ル例モ多々アリマス、併シナガラ今回勅令ノ定メル所ニ依ルト云フ字句ヲ特ニ使ツタ所以ノモノハ此ノ法律ノ重大性ニ鑑ミマシテ、其ノ手續ヲ出來ルダケ慎重ニシテ國民ノ權利、利益ヲ苟モシナイ、斯ウ云フ趣旨ノ下ニ省令其ノ他ノ手續ヲ避ケテ勅令ニ依ッテ大本ヲ決メタイ、斯ウ云フ趣旨ヲ意味シタノデアリマスカラ、其ノ點ヲ御了承願ヒタイト思ヒマス

○山岡萬之助君 總理ノ御説明ニ依リマシテ能ク了解ヲ致シマシタ、私ノ考フル所モ、政府ノ國民精神總動員ヲ以テ此ノ事變ノ勃發ト同時ニ國家總動員ヲ爲シ、大イニ舉國一

致ノ實ヲ舉ゲラレテ居ルノデアリマス、是ハ我が國民ノ忠誠ノ誠ト共ニ、相當ニ實際上ノ效果ヲ舉ゲテ居ル次第デアリマス、ソレダケヲ以テ何モカモ盡キルト云フ譯デハナイノデアリマシテ、只今御説ノ如ク複雑ナル社會ニ一ツノ輪郭ヲ與ヘテ統制スル、斯ウ云フコトハ私モ御同感デアリマス、兎ニ角一ツノ向フ所ノ大綱ヲ定メテ置クト云フコトハドウシテモ必要デアリマス、即チ國家ノ動員計畫ト云フモノハ是ハ樹テ置カナケレバナラスコトデアリマス、唯私ノ申述ベタ所ハ政府委員カラ重ネテ御答辯ニナッテ居リマスガ、此ノ法規ヲ立テルコトニ當ッテ、成ルベク大綱ヲ定メ、而シテ勅令ニ依ルト云フヤウナ無益ナル……無益ト云フ言葉ハ語弊ガアリマスガ、勅令ト云フコトヲ書カズデモ宜イト云フ所ニ勅令ヲ書イテ置クコトガ宜シクナイ、假ニ勅令ト云フコトガハッキリシテ居ラナクテモ、戰時事變ニ際シマシテ、勅令ヲ以テ立法シタカラト言ウテ、之ヲ咎メル國民ハ私ハナイト思フ、ソレダカラシテ此ノ立法ニハサウ云フ風ナ意味デ立案スルガ適當デハナカラウカ、斯ウ云フ風ナ考方ヲ申述ベタ次第デアリマス、只今總理ノ御説明ニアリマシタ大綱ヲ定メルト云フコトハ誠ニ必要ナコト考ヘマス、

次ニモウ一點御尋ネシテ置キタイト思ヒマス、是ハ主トシテ衆議院ニ於キマスル論議ノ事柄カラモ來テ居リマスルケレドモ、併シ此ノ法案ト云フモノヲ支那事變、即チ當面ノ事變ニ之ヲ適用スルヤ否ヤノ問題デアリマス、此ノ問題ニ付キマシテハ最初陸軍大臣ハ、十三條ハ今次事變ニ適用シナイ、斯ウ云フ御意見ヲ御述ベニナッテ居リマス、ソレカラ又色々ナコトヲ御述ベニナッテ、二十條ノ新聞紙等ニ關スル規定ハ是ハ法案ガ成立シテ實施サレ、バ直チニ活動スルノデアアル、斯ウ云フ風ナ御説明モアリマシタ、ドウモ何處ノ所ガ果シテ本義デアルカ、甚ダ迷ハザルヲ得ナイモノガアルノデアリマス、總理ハ此ノ御提案ニ際シマシテ支那ノ事變ガ何處迄進ンデ行クカ分ラヌノデアアル、ソレデアアルカシテ事變ノ動キ方ニ依ッテハ此ノ法案ヲ一日モ早く成立セテ置ク必要ガアル、斯ウ云フ風ナ趣旨ノ御陳述ガアリマシタ、ソレヨリ推測致シマスレバ支那事變ガ展開シテ、何カ階段ノ事情ガ起レバ之ニ適用スルノダ、斯ウ云フコトモ見エルノデアリマスルガ、其ノ言葉ハソレ程ハッキリ致シテ居リマセヌ、是ハ法案ガ成立ッテ居リマスル以上事態ガ急迫シテ參リマスレバ、之ヲ働カスト云フコト

ハ、有效ナル法律トナッテ居ッテ働カスト云フコトニナルコトモ當然デアリマス、大體現狀ニ於テト云フコトヲ伺フヨリ外ナイノデアリマス、斯ウ云フ狀態ニ於テ此ノ法律ヲ支那事變ニ適用サレルコトデアラウカ、ドウデアリマセウカ、兎モ角モ衆議院ノ議事ニ於テハ甚ダ分ラヌノデアリマス、何レヲ是トシ何レヲ否トスルカ、デアリマスルカラ、是ハ總理ノ御言葉カラハッキリト致シテ置キタイ一點デアリマス、其ノ次ハ本案ガ成立シタ曉ニ於テノ問題デアリマス、ソレニ關シマシテ若シ此ノ法律デ不十分ナ場合ヲ生ジタ時ニハドウ云フヤウニスルンダト云フ問題ガ論ゼラレテ居ルノデアリマス、ドウモ私ハ斯ウ云フコトヲ此ノ提案審議ニ際シテ餘リ論ジタクハナイノデアリマス、ナゼカト申シマスレバ、政府ハ此ノ御提案ヲ以テ今日ノ時局、否將來ノ時局ニ對スルコトヲ眼目トシ、サウシテ此ノ法案ノ定メタル大綱ヲ以テ其ノ時局ニ臨ミ得ルト云フ確信ヲ御持チニナッテ居ルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌノデアアル、若シサウ云フ御考ガナクシテ、此ノ法案ハ成立シタガ、尙足ラナケレバドシナ處置デモスルンダト云フコトデスト、折角法案ヲ御提出ニナッテ此ノ非常時局ニ對應、對處スルト云フ

確信ト云フモノガナイコトニナルノデアリマス、私ハ左様ニ考フベキモノデナイト思フ、ソレデアリマスルカラ、政府ノ御考ト云フモノハ此ノ法案ガ成立スレバ之ニ依ッテ十分デアアル、唯ソレハ豫測ノ出來ナイコトガアレバ、憲法ニ既ニ緊急勅令ナリ又愈豫測ガ出來ヌ非常ナコトガ起ッテ來マスレバ戒嚴令モアリマセウジ、又三十一條ノ規定モアリマセウシ、ソレハ憲法自體ガサウ云フヤウニ言ッテ居ルノデ、本案ヲ提案シテ審議ヲ求メマスル政府ノ考方トシテハ、此ノ法案ヲ以テ對處出來ルト云フ御考デアラウカト思フ、又サウデナケレバナラヌト思ヒマスレドモ、然ルニ此ノコトニ關シマシテハ、政府委員ノ御答辯モ、衆議院ノ最終會議ニ於キマシテモ尙三十一條ノ關係ヲ御述ベニナッテ居ル、甚ダ其ノ邊ニ不安、御論議ガアルノデアリマス、仍テ此ノ點モ總理ヨリハッキリシタ御答辯ヲ願ッテ置キマスルコトガ、法案ノ審議ヲ進メル上ニ於テ適當ナリト考ヘルノデアリマス

○國務大臣(公爵近衛文麿君) 此ノ支那事變トノ關係デアリマスガ、支那事變ハ此ノ本法ノ第一條ノ「戰爭ニ準ズベキ事變」ト云フコトニ當ルノデアリマシテ、從ッテ本法ガ制定セラレ、施行セラレルコトニナリマスレバ、本法ハ固ヨリ此ノ度ノ事變ニモ之ヲ發動シ得ルノデアリマス、併シ之ガ實際ノ運用ニ付キマシテハ政府ハ大體次ノヤウナ方針ヲ執ル積リデアリマス、第一ニハ現ニ軍需工業動員法ニ依ッテ工場ノ管理等ヲ實施シテ居ルノデアリマスガ、此ノ部分ハ本法ノ施行ト同時ニ發動スルノデアリマス、第二ニハ支那事變關係ノ臨時諸法律ハ今後事態ノ著シキ變化ナキ限り其ノ儘ニ施行致シマシテ、本法ニ於ケル當該部分ハ之ヲ發動セシメナイ、次ニ前述以外ノ部分ノ發動ハ一ニ今後ノ事態ノ推移如何ニ係ルノデ、必要ヲ生ズル場合ニハ之ヲ發動セシメマシテ適宜ノ措置ヲ講ズル積リデアリマス、ソレカラ第二ノ御尋ノ本法デハ不十分デアアル場合ニハドウスルカト云フ御尋デアリマスルガ、政府ハ此ノ法律ヲ以テ大體時局ニ對處シ得ルト確信ヲ致シテ居リマス

○委員長(子爵渡邊千冬君) 山岡君ニ御尋ネ致シマスガ、總理大臣ニマダ御質問ガ澤山アリマスカ

○山岡萬之助君 モウ此ノ程度デ……

○委員長(子爵渡邊千冬君) 總理大臣ハ電力ノ方ノ委員會カラ午前中ニ暫時出席ヲ願ヒタイト云フコトガアリ、午後ハ衆議院ノ豫算總會カラ午後一時半カラ出席ヲ願ヒタイ

ト云フコトデアリ、今政府ノ御都合ヲ伺ッテ見マシタラ、衆議院ノ方ハ三時ニハ大概済ムダラウト云フコトヲ承ッテ居リマス

○山岡萬之助君 私ハ大要此ノ程度デ總理

大臣ニ伺ヒマスルコトハ止メタイト考ヘテ居リマス、總理大臣ノ明快ナ御答辯デ能ク了承致シマシタ、首相ニ伺ヒマスコトハ此ノ程度ニ止メマシテ、他ノ問題ニ移リタイト思ヒマス、本案ガ此ノ憲法ノ違反デアルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、先ニ述ベマシタヤウニ、ドウシテ見タ所デ、此ノ案ニ付テ深ク研究論議スルノ必要ヲ感ジマスガ、其ノ點ニ於キマシテ、矢張り憲法第二章殊ニ二十七條ノ所有權保障ノ規定、ソレト非常時ニ於キマスル所謂非常大權、其ノ關係ニナルト思フノデアリマス、デ本案ハ勿論議會ノ協賛ヲ經テ法律デアリマスルカラ、是ハ非常時ノミニ働クト云フモノデナイトコトハ勿論デアリマス、ソレカラ又法律ト云フモノガ第二章ノ關係ニ於テ立法出來ル以上ハ其ノ事柄ハ、非常時デアルガ故ニ之ヲ合法化シ、非常時デナイトガ故ニ合法的デナイト云フ譯ニハ私ハイカスト思フ、即チ法律ニ與ヘラレタル權能ハ非常時デアルカラ制限ガ出來ル、制限ガ出來ナイト云フノデヤナイ、法律ヲ以テ適當ニ制限

スルナラバ宜シイ、即チ一定ノ範圍内ニ於テノミ立法事項トシテ許サレテ居ルノデアアル、ソレデアリマスルカラ、例ヘバ所有權ノ全部ヲ奪フ、或ハ裁判官ノ裁判ノ權能ヲ全部奪フ、サウ云フコトハ斷ジテ法律ト雖モ出來ナイノデアアル、然ルニ三十一條ノ大權、非常大權ノ作用ニナリマスレバ、憲法ノ法規ヲモ超越スルノデアアル、サウ云フ次第デアリマスルカラ、此ノ法案ニ規定スル所ハ非常時デアアルガ故ニ、合法化スト云フ譯ニハイカヌノデアアル、唯併シ法律ニ於テ決定メタル事項ニ付テ非常緊急ノ場合ニ於テ法律ニ代ハル緊急命令ヲ以テ規定スル、是ハ非常時ヲ救フ爲ノ規定デアリマス、サリナガラ此ノ規定トモ立法事項以上ニ出ル譯ニイカナイノデアアル、矢張り憲法法規ヲ超越スル譯ニハイカナイノデアアル、唯戒嚴令ノ場合ガアリマス、是ハ法律ヲ以テ戒嚴ノ要件、效力ヲ決メテアリマス、併シ戒嚴令ヲ宣告スルト云フコトハ大權ノ作用デアリ、其ノ法律ガ非常ノ場合ニ戒嚴令ノ效用トシテ足ラナイト云フコトニナリマスレバ、是亦緊急勅令ヲ以テ代ヘルヨリ他ナイノデアアル、又サウスルノガ當リ前デアアル、而シテ先ニ述ベマシタ憲法第九條ニ依リマスル所ノ獨立命令等ニ於テ臣民ニ與

ヘラレタル權利自由ノ關係ハ、是ハ如何ナル場合ニ於テモ命令ニ依ッテ變更出來ルノデアリマスカラ問題ニナラナイ、デアリマスカラ法律ヲ以テ制限シテ居ル關係ニ付テ非常時ノ場合ニ問題トナリマスル所ハ、右ニ述ベマシタ所ト、其ノ以外ニ於キマシテハ緊急命令若シクハ戒嚴令等ヲ外ニシテ、必要ナ場合ニ於テ戰時事變ノ場合ダケ憲法ノ規定ヲ超越シテ、非常大權ガ行ハレル、斯ウ云フ風ナコトニナルト思フノデアリマス、ソコデ本案ニ付キマシテハ總理ノ御述ベニナッテ居ルヤウニ、皆憲法ノ範圍内ニ於テ何處迄モ進ンデ行カナケレバナラヌ、ダカラシテ憲法ヲ超越シテ行クト云フ考方ハ其處ニナイノデアアル、憲法ニ準據シテサウシテ規定ヲシテ行クノデアアル、然ラバ三十一條ハ憲法ニ準據スト云フ言葉トハドウナルカ、勿論非常大權トシテ各國ノ憲法ノ其ノ時代ノ憲法ニナカッタモノガ書イテアリマスガ、何トシテモ憲法ヲ超越スルノデアリマスカラ、是ハ餘程意味ノ變ッタモノデアアル、憲法法規自體ガ廣イ意味、第二章ノ全體ニ從ッタモノデナイトハ當然ノ結論デアラウト思ヒマス、サウ云フ譯デ本案ハ戰時事變ニ際スルモノデアッテ、獨立スル立法デアハアリマスルケレドモ、此ノ事ハ法律

論、憲法論トシテハ平時ニ於テモ是ダケノ規定ガ出來ルモノデナケレバナラナイ、平時ニ於テ斯ウ云フ規定ハ出來ナイノダ、準備規定ハ勿論出來マスガ、實施規定、實施規定ガ出來ナイト云フモノデアアルナラバ、ソレハ憲法ヲ超越シテ居ルノデアアル、勅令ノ内容ガ既ニ其處迄行ケバ憲法ヲ超越シテ居ル、サウ云フコトニナルノデアアル、ダカラシテ平時立法トシテ憲法ノ解釋、法律論トシテハ、平時立法トシテモ即チ實施規定ハ平時ニ於テモ斯クスルコトガ出來ルノダ、斯ウ云フコトニナラナケレバ、法律論トシテハ成立タスト思ヒマス、即チ本論ヲ合法化スルコトガ出來ナイト思ヒマス、先ヅ其ノ點ニ關シマシテ政府ノ所信ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(鹽野季彦君) 憲法第二章臣民ノ權利義務ニ關スル所謂立法事項ニ付キマシテハ、法律ヲ以テ規定スベキコトハ示サレテアリマス、御説ノヤウニ平時ニ於テモ戰時ニ於テモ同様デアリマシテ、戰時デアラカ立法ガ出來ルトカ、平時ニ於テハ出來ナイト云フヤウナ差別ハ毫モナイノデアリマス、勿論平時ニ於テモ立法ノ出來ルモノデナケレバ相成ラスノデ、御説ノ通りデアリマス

○政府委員(青木一男君) チョット補充シ

テ申上ゲタイト思ヒマスガ、本法ノ内容タル事項ハ平時ニ於キマシテハ大體ニ於テ其ノ立法ノ必要ノナイト云フ事項ガ多カラウト思ヒマス、法律ノ規定シ得ル事柄ト云フ意味ニ於テハ御説ノ通リト思ヒマスガ、此ノ總動員法ノ内容タル事項ハ戰時ニ限り實際ノ必要ガアル、斯ウ云フ特質ガアルト考ヘマス

○山岡萬之助君 只今法相ノ御述ベニナッ

タコトニ於テ、立法事項デアリマスルカラ、立法事項ハ戰時事變ノ場合ニ於テト規定スルコトハ少シモ差支ナイコトデアリマス、憲法ノ建前カラ戰時タルト平時タルトヲ問ハズ出來ルコトデナケレバ戰時デモ出來ナイノデアリマス、其ノコトガ出來ナイト云フナラバ他ノ憲法ノ必要ニ據ラナケレバナラス、斯ウ云フ意味ニ於テ申上ゲタノデアリマス、法相ノ御陳述ハソレヲ是認セラレテ居リマスガ、只今政府委員ノ御述ベニナッタコトハ此ノ法案ニ於テハ平時ニ於テハ適用ノナイモノガアル、又戰時ニ於テ必要ダカラサウ云フ風ニシタ、斯ウ云フ御話デアリマス、私ノ間ハムトスル以外ノ所デアリマスルガ、私ハ法理論、即チ法律上サウ云フコトハドウデアルアカト云フコトヲ御尋ネ致シタノデ

アリマス、併シ實際論トシテハ本法ヲ立テマスル關係ニ於テ答辯ノアツタコトハ了承致シマス、ソレカラ進ンデ御尋ラシタイ所ハ政府ニ於テハ戰時又ハ事變ニ際シテ非常大權ヲ發動セシムルヨリモ豫メ此ノ總動員ノ計畫ヲ定メテ、國民ヲシテ大道ヲ了解セシメルコトガ立憲的デアル、斯ウ云フコトデ此ノ法案ノ妥當性乃至ハ合法性ヲ御述ベニナッテ居ルノデアリマスガ、是ハ併シ矢張り政治論デアリマス、決シテ法律論ニハ私ハナラスト思フノデアリマス、サウシテ非常大權ニ據ルヨリモ法律デ平時決メテ國民ニ知ラシメテ置イタ方ガ宜イノデアルト云フコトハ妥當性ノ問題ニナルト思フ、デ憲法上ニ於テ本案所定ノ如キ事柄ヲ法理化シマス場合ニ立法手段ニ據レルカドウカト云フ點ニ付テ政府ハ立法手段ニ依レルカラ、此ノ法案ヲ提案シタノダト、斯ウ御答ニナルコトデアラウト思フノデアリマス、唯併シサウ云フコトノ説明ヲナスニ當リテ非常大權ガ發動シ得ルケレドモ法律ニ依ッタ方ガ宜イダト、此處ニ其ノ分ヲス所ガアル、非常大權ノ作用ト云フモノハデス、法律關係カラ離レテ、否、憲法其ノ他ノ法理カラ超越シテ存在スル規定デアリマス、ソレヲデス、非常大權ト云フモノハ非常ノ上

ノモノダ、ソレニ依ルヨリモ下ノ法律ニ依ッタ方ガ、即チ憲法ノ範圍内ノ規定デアル法律ニ依ッタ方ガ宜イ、非常大權ハ憲法ノ範圍内デハナイ、即チ憲法ノ其ノ他ノ條章ヨリ超越シテ居ル、デアルカラ此ノ説明ト云フモノハ全ク此處カラ病ハ私ハ出テ來ルト思フ、本案ノ内容ハ立法手段ニ依ルコトガ適當デアル、斯ウ御認メニナッタ點ハ私モソレデ宜イト思フ、唯ソレヲ説明スルニ當ッテ、サウ云フ御説ヲ述ベラレル所ニ面倒ナ問題ガ起キテ來ルト思ヒマス、言葉ヲ換ヘテ御問ヲ致シマスレバ、非常大權デ斯ウ云フ内容ノモノヲ只今戰時ニ使フノデアルカラ出來ルカト言ウタラ、只今デハ出來ヌト仰シヤルデセウ、ソレデヤ戰時、事變ニ際シタナラバト申シテ、今日支那ノ事變ハ準戰時デアルト云フコトハ疑ヒナイ、準戰時デス、サウスルト今非常大權ノ發動ヲ求メテ、此ノ内容ト同ジモノヲ此處ヘ持ッテ來テ宜シイカ、斯ウ云フ論ガ其處ヘ出テ來ル、イヤソレハ出ルノダト仰シヤルノデアルカ、出來ナイト仰シヤルノカ、ソコナノデアリマス、詰リ憲法ノ範圍内ニ於テ進ンデ行クコトガ適當デアル、今日ノ時代、即チ今日ノ狀態ニ於テハ非常大權ニ依ルベキモノデナイト云フカ、ソコノ問題ガ私ノ伺ハムトスル所

デアリマス、法律論ガ決ツタ後ニドチラニ行クガ適當デアアルカト云フコトニナル、法律論ヲ決メナイ間ニ、ドツチニデモ行ツテ宜シイ、ドチラデモ宜シイト云フコトデハ、即チ法律論ト政治論ヲ混同シタコトニナリマスカラ、此ノ場合ハ政治論ヲ混ヘズ、法律論トシテ向ッテ置キタイノデアリマス

○國務大臣(鹽野季彦君) 御説ノ通リニ立

法事項デアリマスルカラ法律ニ依ルヲ正當ト考ヘマス、衆議院ニ於キマシテハ、質問スル者ガ、三十一條ノ大權ノ問題ヲ頭ニ置イテ質問ガ始リマシタガ爲ニ、ソコニ之ニ對シテ妥當ト云フヤウナ論議ガ起ツタノデアリマス

○山岡萬之助君 只今御答辯ニ依リマスレ

バ、非常大權ノ關係ト此ノ本案ノ立法トハ違フト、斯ウ云フ程度迄ハ分ッテ居リマスガ、非常大權ニ依ッテ、今日所謂準戰時デ、國家事變ト云フ三十一條ノ要件ニ充タサレテ居ル、斯ウ云フ法案ガ、今日三十一條ニ依ッテ此ノ内容ヲ有ツタモノガ非常大權ヲ發動出來マスカ出來マセヌカト云フ問題デアリマス、其ノ點ニ付テ御答ヲ願ヒタイ

○國務大臣(鹽野季彦君) 非常大權ヲ發動

シテ此ノ案ノ内容ト同ジコトヲ爲シ得ルコトデアリマス、ガ併シナガラ現在ニ於テ

此ノ事項ヲ規定致シマスル上ニ於テハ立法ノ手續ヲ執ルベキモノデアルト考ヘマス

○山岡萬之助君

サウ致シマス、今日ノ事態ノ上ニ於キマシテハ、内容ハ大權作用ハ何等ノ制限ガナイデアリマス、非常大權ノ行使ヲ致スニ付テハ如何ナル事柄デモ出來ルデアリマス、内容ニ付テノ制限ハナイデアリマスガ、今日ノ事態ノ上ニ於テ之ヲ發動スルト云フコトハ出來ナイモノデアルト、乃至ハ適當デナイト云フ意味合デアリマセウカ、其ノ邊ヲ今一度伺ヒタイ

○國務大臣(鹽野季彦君)

御説ノヤウニ大權ノ發動ハ圓滿無碍ノモノデアリマスルカラ、本案ノ内容ニ付キマシテ發動サル、コトガ出來得ルデアリマスコトハ申ス迄モナイノデアリマスガ、ソレナラバ只今ニ於テ之ヲ、此ノ内容タル臣民ニ對スル負擔ヲ規律セシムル方法ト致シマシテハ、矢張り憲法ノ章條ニ遵ッテ立法ニ依ルベキモノト考ヘテ居ルデアリマス

○山岡萬之助君

今日ノ事態ニ於テハ立法事項デアアルカラ、法律ノ手續、即チ本案ニ依ッタルデアルト、斯ウ云フ風ナ、要スルニ御言葉デアリマスルガ、大體私ノ今迄質問ヲシタ所ヲ綜合シテ考ヘマスレバ、内容ニ付テ、如何ナルコトモ非常大權ハ出來ルノデ

アリマスルカラ、内容論ハ是ハナイノデアリマス、デアアルカラ内容ガ同ジコトガ出來ルカラト云フ事柄デハ、三十一條ノ説明トハ私ハナラスト思フノデアリマス、デ歸スル所ハ、三十一條ハ今日ノ事態ニ於テハ之ヲ發動スベキモノデナイト、發動スルコトガ適當デナイト云フノデハナイ、スベキモノデナイト私ハ考ヘマスガ、サウ云フ風ナ意味合ニ御述ベニナッタモノト私ハ了承致ス

ノデアリマス、其ノ意味ニ於テ私ノ考フル所ヲ尙進メテ參リタイト思ヒマス、三十一條ニ關係アリマスル事柄ト、憲法三十一條ニ關係ノナイ事柄ガ本案ニハ相當書イテアリマス、即チ第二章ニ關係ノナイコトガ相當書イテアリマス、デ本案ノ中デ第二章ニ關係ノアル事柄、即チ三十一條トノ聯繫問題ヲ生ジマスル事項ハ、憲法ノ二十二條ノ住居、移轉ノ自由ノ問題ニ關係ノアル徵用ノ問題ガアリマスガ、ソレカラ二十九條ノ言論關係ニアリマスルコトハ、曩ニ述ベタ通り其ノ大部分ト云フモノハ、憲法三十一條トノ連繫問題トシテ考究スベキ問題ハ二十七條ノ問題デ、所謂所有權ノ不可侵問題ニ止マルト思ヒマス、ソコデ衆議院ニ於キマスル質問應答ニ於テ、其ノ他ノ第二章ニアリマスル數多イ規定、即チ十八條以下三十

條迄アリマスルガ、多クノ臣民ノ權利自由ヲ保障シタ規定ガアリマス、サウ云フコトガ皆大權作用ニ於テ、非常大權ニ於テ發動出來ルト云フ御説明ガアリ、而シテ本案提出ノ際問題トナッテ居ッタク集會ニ關スル規定、新聞ノ發行問題ニ關スル規定、サウ云フ削リ去ラレタ條文モ必要ガアレバ非常大權デ發動スルト云フ風ナ御説明ガアルノデアリマス、餘リハツキリシテ居リマセ

ガ……サウ云フコトニ關シマスル是ハ青木政府委員ノ御述ベニナッテ居ル事柄デアリマスガ、此ノ點ニ關シテドウ云フ風ナ御考カラア、云フ風ニ御述ベニナッタノデアリマスルカ、非常大權ト云フモノハ、立法手續ニ依ル所ノ法案トハ甚ダシキ隔リガ其處ニアルノデアリマス、ソレヲ結び付ケテ左様ニ御述ベニナルベキ筋合ノモノデハナイト思ヒマス、其ノ點ガ如何ナコトデアリマセウカ、御述ベニナッタ政府委員カラ同ッデ置キタイト思ヒマス、ソレニ關シマシテ茲ニ御參考ノ爲ニ申シテ置キタイト思ヒマスルガ、是ハ政府委員ニ於テモ既ニ熟讀セラレテ居ルコトト思ヒマス、伊藤公憲法義解デアリマス、ソレニ於テ、本章掲グル所ノ三十一條ノ説明トシテ、條規ハ憲法ニ於テ臣民ノ權利ヲ保明スル者デアアル云々、憲法ハ

猶非常ノ變局ノ爲ニ非常ノ例外ヲ掲グルコトヲ怠ラズ蓋國家ノ最大目的ハ其ノ存立ヲ保持スルニ在リ、此ノ要件ナクンバ三十一條ガ發動スルト云フコトハナイ筈デアリマス、デ其ノ例トシテ熟練ナル船長ガ積荷ヲ海中ニ投棄シテ、其ノ船客ヲ救フ、又良キ將軍ハ全軍ノ敗ヲ避クル爲ニ一部曲ヲ犠牲ニスル、結論トシテ國憲ハ危難ノ時機ニ際シテ、國家及臣民ヲ救済シテ、其ノ存在ヲ保全スル爲ニ唯一ノ法アリト認ムルトキハ、斷ジテ法律及臣民權利ノ一部ヲ犧牲ニ

出來ナイコトハ何事モナイノデアリマス、ガ併シナガラ之ヲ行使スルト云フコトハ、斯クノ如キ條件ノ下ニ而モ其ノ一部ヲ犠牲ニシテ、最大目的ヲ達セナケレバナラスト、斯ウ云フ風ナコトニ三十一條ノ立法趣旨ハナッデ居ルノデアリマス、サウシマスルト云フト、立法事項ヲ法律ニ依ッテ決メルト云フ問題ニ結付ケテ、三十一條ノ大權發動ガ立法ニ隙イテ居レバ何時デモ出テ來ルト云フ説明ハ非常ナ距離ノアルモノヲソコヘ結付ケテ來ルト云フ可キナリ嫌ヒガアル、加之政府委員ハ斯ウ云フ風ナコトヲ御述ベニナッテ居ル、勅令ニ委任シタ委任關係、委任シタノハ此ノ法律ガ勅令ナシデハ動カナイカ

ラデアル、併シ勅令ガナクテモ動ク規定ガアル、是ハマア姑クソコノ所ハ措キマシテ、ソレニ付キ本法ニ附帶シテ、憲法三十一條ノ非常大權ヲ發動スルコトハ妥當デナイト

思フ、出來ナイトハ言ハレナイ、法理上出來ナイト云フノデハナクシテ、妥當デナイト云フ唯精神論デ説明ヲサレタ、其ノ爲ニ

本法ニ勅令ヲ附シタノデアル、デ三十一條ニ法律ヲ結び付ケテ行クト云フコトガ、既

ニ考方トシテドウカト思ハレルノデアリマス、サウ云フ次第デアリマシテ、曩ニモ申

述ベマシタヤウニ、法律ハ憲法第二章ノ三十一條ヲ抜イタ全體ノ規定ノ範圍ニ於テ出

來ルガ、非常大權ハ其ノ範圍以上ニ出テ居

ル、サウ云フモノガドウシテ見タ所デ結付

ク筈ハナイ、ソレヲ連繫セシメテ御説明ニ

ナッテ居ルコトハ如何カト思フノデアリマ

ス、ソレニ付テ十分ニ御考究ノ上ニ御意見

ヲ御述べ願ヒタイト思フノデアリマス、此

ノ答辯ハ深ク十分ニ御研究ノ上ニ、前ニ述

ベラレタ所ト變ッテ居ルカラト云フヤウナ

コトデ、唯妥當デアルトカ妥當デナイトカ

是ガ宜イト思フトカ云フコトデナシニ、ド

ウゾ憲法ノ上カラ、又法律論トシテ御答ヘ

願ヒタイ

旨モ了承致シマシタ、衆議議ニ於ケル陳述ニ付キマシテハ、速記録ヲ能ク讀ミマシタ上ニ政府委員カラ御答ヲ致シタイト思ヒマス

○委員長(子爵渡邊千冬君) 休憩致シマス、午後ハ二時カラ開會致シマス

午後零時八分休憩
午後二時十七分開會

○委員長(子爵渡邊千冬君) 午後ノ會議ヲ開キマス

○政府委員(青木一男君) 午前ノ山岡サンノ御尋ニ對シマシテ私ヨリ御答ヲ申上ゲタ

イト思ヒマス、國家總動員法ト憲法第三十

一條トノ關係ニ付キマシテハ、衆議院ニ於

キマシテ大體二通りノ御質問ガアッタノデ

ゴザイマス、其ノ一ツハ戰時事變ノ際ニハ、

憲法第三十一條ガ完全ニ發動スルノデア

カラ、本法ノ制定ハ必要ガナイデハナイカ、

寧ろ本法ヲ制定スルコトガ憲法第三十一條

ノ大權ノ發動ヲ制限スル結果トナッテ不都

合デハナイカ、斯ウ云フ御趣旨ノ質問ガ本

會議以來屢、繰返サレタノデアリマス、ソレ

カラ委員會ニ於キマシテハ、モウ一ツ多少

デアアル、デアアルカラ此ノ法律ニ基ク勅令トセズニ、憲法第三十一條ニ基ク勅令トシテ發動スレバソレデ足ルノデハナイカ、斯ウ云フ質問モ出タノデアリマス、是ニ對シマスル政府ノ見解ハ本會議、委員會ヲ通ジマシテ屢、國務大臣及ビ政府委員ヨリ御答致シ

タノデアリマスガ、之ヲ要約致シマスレバ、

元來憲法三十一條ハ普通ノ立法手續ト同列

ニ考フベキモノデハナイ、憲法義解ニ所謂

非常ノ變局ニ處スル非常ノ例外デアッテ、國

家ノ存立ヲ保全スル爲ノ唯一ノ必要方法ト

シテ、其ノ限度ニ於テ法律及ビ臣民ノ權利

ノ一部ヲ犧牲トスル場合ヲ豫想スルモノデ

アルコトハ、先程山岡サンノ御述ノ通りト

政府モ考ヘテ居ル次第デアリマス、從ヒマ

シテ、國家總動員法ノ如ク戰時ニ當ッテ國家

權力ガドウ云フ方向ニ發動スベキカ、之ニ

對シ今日ヨリ豫想シ得ルモノハ、通常ノ立

法手段ニ依ッテ是ガ對策ヲ立デテ置クコト

ガ宜シイ、斯ウ云フ考方デアリマス、此ノ

考方ハ從來我が國ニ於テ歴代内閣ノ採ラレ

タ御方針ト一致シテ居ルモノト考ヘテ居

リマス、本法ノ前身デアアル軍需工業動員法

ガ法律ノ形ニ於テ制定サレタノモ、其ノ趣

旨デアアルコトト考ヘテ居リマス、又日清、

日露、歐洲大戰或ハ今回ノ日支事變ニ於キ

マシテ、或ハ緊急勅令或ハ法律ノ形ニ於テ

戰時對策ヲ講ゼラレ、未ダ曾ッテ憲法第三十

一條ノ發動ヲ見ナカッタ所以ノモノモ、其ノ

根本解釋ガ政府ノ考ト一致シテ居ル證左デ

アルト考ヘル次第デアリマス、衆議院ノ委

員會ニ於キマシテ、先程山岡サンカラ私ノ

答辯ニ付テ御尋ガアッタノデアリマスガ、衆

議院ノ委員會ニ於キマシテハ立法事項ヲ含

ンデ居ル勅令ハ、第三十一條ノ大權ノ發動ニ

依ッテ自由ニ出來ルト思フカ、ドウカト云フ

抽象的ナ御質問デアッタノデアリマス、私共

ハ具體的ニ本法ノ缺陷ガドウ云フ形デ大權

ノ發動ニ依ッテ補ハレ、必要ヲ生ズルカト云

フコトハ實ハ想像ガ付カナイノデアリマス

ガ、抽象論トシテハ只今ノヤウナ御質問ガ

アリマスレバ、憲法第三十一條ハ之モ政府

ヨリ屢、申述ベテ居リマス如ク廣大無邊ナル

モノデアリマシテ、其ノ先程申上ゲマシタ

三十一條發動ノ要件ガ備ッテ居ル場合ニハ、

之ニ依ッテ目的ヲ達シ得ル場合モアリ得ル、

抽象的ナ法律論トシテハ、サウ云フコトモ

アリ得ルト云フ御答ヲ致シタ次第デアリマ

ス、左様ニ御承知ヲ願ヒマス

○山岡萬之助君 只今立法ト憲法三十一條

ノ非常大權ノ關係ニ付テ御説明ガアリマシ

タ、大體了承致シマシタ、御述ニナッテ通

項ヲ削ッテモ宜クハナイカ、委任勅令モ勅令

リニ立法ト非常大權トソコニ直チニ結付キハ付カナイノデアリマシテ、非常大權ハ有ラユル國權ノ作用ガ憲法第二章ニ關スル限リ出來マス次第デアリマス、今政府委員ノ述ベラレタヤウニ、三十一條ヲ勵カス條件ガ備リマスレバ第二章ニ關スル限リ有ラユル措置ガ出來ル次第デアリマス、ソレデアリマスカラシテ、斯様ナ立法、其ノ他憲法ノ命ズル勅令等ニ於テ不備ナモノガアリ、一朝有事ノ際ガ起キテ、非常已ムヲ得ナイ時ニ於テハ、勅令ノ形式モ探レマセウシ、或ハ軍令ノ形式モ探レマセウシ、或ハ又處分ノ形式モ探レノデアリマス、デ左様ナ風ニシテ國權ノ圓滿ナル働キガ我ガ憲法ニ於テハ有ラユル場面ニ對應スルヤウニ出來テ居リマスルノデ、政府委員ハソレヲ廣大無邊ナ意味合ニ於テ存在スルト御話ニナリマシタガ、サウ云フ次第デアリマスカラ、今日ニ於ケル立法ガ、先程モ伺ヒマシタヤウニ、平時ニ於テモ出來ル立法デアラナラバ、平時ニ於テモ出來ルコト以上ニハ出來マセヌ、非常時ガ出テ參リマス時ニハ、非常處置ヲ採ルヨリ外ニナイノデアリマス、其ノ程度ニ於テ爲シ得ルコトハ是非爲シテ置ク必要ガアル、ソレヲ爲シテ置イテ、尙足ラヌ場合ニ於テハ非常處置ガ各方法ヲ以テ現

レテ來ルノデアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラシテ、此ノ非常大權ガ働ク場合ガアルト云フコトヲ御述ニナッタコトハ一向差支ナイコトデアリマス、唯私今迄段々伺ヒマシタコトハ本立法ト牽聯セシメ、即チ法律ト牽聯セシメテ、法律ガ足ラナケレバ直チニ之デ補ヒ得ル、斯ウ云フ風ナ經緯ニ見エルノデアリマス、御考ハドウモサウデモナカッタヤウニ色々御述ニナッテ居リマシガ、只今御考ヲ承リマシテ其ノ連繫ハ別ニナイ、三十一條ノ要件ガ備ル時ニ於テ發動スルノダ、斯ウ云フ御話デアリマスカラ、左様ニ了解致シマシテ、更ニ進ンデ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、先刻委任命令ノコトニ付テ鹽野法相ヨリ伺ヒマシテ御答辯ヲ得タノデアリマスガ、其ノ問題ニ付キマシテ續イテ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、委任命令ノ範圍ト申シマスカ、委任命令ニ依ッテ制定スベキ立法事項ハ如何ナル場合ニ於テモ特定事項ニ限定サレテ居リマスカコトハ當然デアリマス、何故ナラバ條文ニ立法事項ガ書キ現サレテ居リマシテ、其ノ條文ヲ運用スル爲ニ勅令ニ委任スルト云フ譯デアリマスカラ、其ノ條文ヲ運用スル以上ニ出ル筈ガナイ、若シ非常時デアラカラト云ッテ、其ノ範圍ヲ超脱シテ勅令ニ藉リテ

何事カ規定シタナラバ、ソレハ即チ三十一條ヲ干犯スル譯デアリマス、法律ハ何トシテ見タ所デ、ソコニ委任セラレタル範圍ニ於ケル外勅令ニ於テ規定ハ出來ナイノデアリマス、ソコノ所ガドウモ今迄ノ衆議院ニ於キマス論議ニ於テハ、私ハ盡キテ居ラスト思フノデアリマス、俗ニ例ヲ取リマスト云フト、親ニ似ナイ鬼子ガ生レル筈ハナイ、何處迄モ親ノ通りノ者ガ、勅令ハソコカラ出テ來ナケレバナラヌ結局瓢箪カラ駒ガ出ルト申シマスガ、サウ云フコトハ有リ得ナイト思フ、私ハソレハ斷定シテ一向差支ナイト確信致スノデアリマス、唯併シ其處ノ點ハ極メテ重要ナル事柄デアリマシテ、此ノ點ニ付テハ鹽野法相ハ屢、繰返シテ衆議院ノ委員會ニ於テ御述ニナッテ居ル、是ハ各本條ノ規定ヲ寧ロ限定シ制限スル、デ今一ツ言ヒ換レバ義務ヲ明カニスルト云フコトデ、ソレデアラカラ決シテ其ノ範圍ヲ超脱スルコトハナイ、斯ウ云フコトヲズツト續ケテ御述ニナッテ居ルノデアリマス、デ此ノ考方カラ行キマスト云フト、所謂ハ限定論、勅令ニ依ッテ事柄ヲ一層明確ニ限定スルト云フコトニナルノデアリマス、今一ツ此ノ勅令ヲ維持スル所ノ理論ハ是ハ寧ロ法律的デナイ政治的ナ妥當論デアル、豫測シ得

ナイコトデアアル、豫測シ得ナイカラ勅令ニ書クト言ッテモ……法律ニ書クト言ッテモソレハ書ケナイ、斯ウ云フノガ所謂事情ノ上カラ御述ニナッテ居ル、今一ツハ其ノ事情ノ説明トシテハ之ヲ明カニスルコトガ國防的見地カラ差支ヘル、故ニ勅令ニ委ネルノデアル、ドウモ此處ノ所ガ何處迄ソレデアラカデ制定シナイデ置ケルデアラウカ、斯ウ云フ問題ガソコヘ出テ來ル、勅令ハ併シ施行迄定メズニ置イテモソレハ差支ナイ、本當ニ勅令カス所謂此ノ法律ガ動イテ行ク時ニ初メテ書イテモソレハ差支ナイ譯デアル、サウスレバソレハ完全ニ秘密ハ保テル次第デアリマス、兎モ角モ豫測シ得ナイト云フ考方カラ此ノ勅令ノ正當ナルコトヲ維持セラレテ居ルノデアリマス、限定論ニ付キマシテハ是ハモウ是以上御尋スルコトハアリマセヌ、ハッキリシテ居ルノデアリマス、唯此ノ豫測論デアリマス、豫測シ得ナイカラ書イタ、此處ニ矢張り私ノ先ニ述ベマシタ委任命令ノ範圍ヲ超脱シテ、戰時デアラカラ是ハ書イタノデアラト云フコトヲ言ヘバ、三十一條ニ牴觸スル嫌ヲ生ズル、私ハ先刻政治論トシテサウ云フ場合ニ多少超脱シテモ國民ハ敢テ咎メナイト云フコトヲ申シタノデアリマスガ、茲ニ法律論トシテ行キマ

スルト云フト、直グソコヘ抵觸シテ干犯論
ガ生ズル、ソレデアルカラ勅令ヲ三十幾ツ
モ書イテ委任サレテ居リマスカラ、ソコニ
人ハ三十一條ヲ干犯シテ居ルノダ、斯ウ云
フ考方ガ餘リ理論ヲ追究セズシテ出テ來ル
ノデアリマス、實際迷フノデス、是ハ三十
一條ヲ干犯シテ居ルノダト云フ風ニ考ヘラ
レル、實ハサウデヤナクシテ委任命令ノ範
圍ヲ若シ之ヲ運用スル人ガ嚴守スルナラバ
三十一條干犯論ガ出テ來ナイ、之ヲ若シ嚴
守セズシテデス、「ルーズ」ニ何モノデモ書
イテ進ムト云フノデアアルナレバ、三十一條
ニ抵觸スル、即チ大權干犯ノ嫌ガソコニ出
ル、是ガ私が今日迄大權干犯論ノ出テ來タ
所以デアルト考ヘマス、而シテ先ニ述ベマ
シタ通り此ノ法律ハチヨットモ差支ナイ、三
十一條デ戰時事變ニハ何デモ出來ルノデヤ
ナイカ、ソレダカラ法律デアルナラバ一層
是ハ結構ダ、斯ウ云フ風ナ俗論ガアッテソコ
カラサウ云フ風ニ論理ヲ追究セズシテ議論ガ
花ガ咲イテ來タモノダト私ハ思フ、ソレデア
リマスカラ、私ノ申上ゲルコトハ全然大權干
犯ト云フモノガ其處ニ出テ來ナイトハ申し
得ナイ、若シ勅令ノ運用宜シキヲ得ズンバ
サウナルト思ヒマス、併シナガラ委任勅令
ヲ嚴守シテ行クナラバサウ云フ問題ハ其處

ニ出テ來ナイモノデアラウト考ヘルノデア
リマス、此ノ考方ニ付テ重要ノ點デアリマ
スルカラ、政府ノ意思ノアル所ヲ承リ且其
ノ豫測論ニ付テ、是ガ法相ノ御述ニナッテ居
ルヤウニ、サウ廣イ方ヘ延ビテ行カナイ、
豫測スルコトノ出來ヌト云フノハ、擴大サ
レルコトノ出來ヌト云フ意味カ、或ハモット
縮小サレル意味ノ考方カ、其ノ點ニ付テ少
シク釋明ヲ得テ置キタイト思フノデアリマ
ス、私ハ一應其ノ程度ヲ伺ヒタイノデアリ
マス

○國務大臣(鹽野季彦君) 委任命令ノ内容
ハ本法ノ各本條ニ明カニ定メテ居リマスル
義務ノ範圍ヲ出デナイノデアリマシテ、本
法ニ基イテソレヲ明確ニシ若シハ制限ヲ
シテ實施スルト云フ爲ニ命令ニ讓ッテアル
ノデアリマス、從ッテ命令ニ依ッテ規定致シ
マス事柄ハ決シテ本法以上ニ出ヅルト云フ
コトハナイノデアリマス、唯衆議院ニ於キ
マシテハ質問者ノ或方ガ成ルベク本法ニ分ッ
テ居ルコトハ規定致シタラ宜クハナイカ、
命令ニ讓ラナイデ本法ノ中ニ規定致シタラ
宜クハナイカト云フヤウナ意味ノ質問ガ度々
アツクデアリマス、假ニ規定致スト致シ
マシテモ戰時ニ際シテ時代ノ遷リ變リガ激
シイ場合ニ於キマシテハ、ドウ云フ程度ニ

本法各條ニ定メテアリマスル義務ヲ實行致
シテ行クカ、サウ云フコトニ付テ豫測ノ出
來ナイト云フ點モアルト云フ意味合ニ於キ
マシテ色々變萬化ノ狀態ニ即應スル爲ニ
ハ命令ニ讓ッテ置クノガ適當デアルト云フ答
辯ヲ致シテ居ッタニ過ギナイノデアリマス、
豫測スベカラザル事項ト申シマシテモソレ
ハ本法各條ニ定メテアリマスル範圍以上ニ
ハ決シテ出ナイコトハ仰セノ通りデアリマ
ス

○委員長(子爵渡邊千冬君) 山岡君ニチヨッ
ト申上ゲマスガ只今アナタノ御質問ニ關聯
ヲシマシテ、司法大臣ノ御答辯ニモ關聯致
シテ居ルノデアリマスルガ、本法ニ委任勅
令ノ規定ノ多イノハ只今司法大臣ノ仰セ
ラレタ通り豫測スベカラザル事項ハ澤山
アルト云フ御話デアリマスシ、動員計畫ニ
關係スルコトガ多イヤウニ承ッテ居ルノデ
アリマスガ、此ノ際政府カラ祕密會又ハ懇
談會ヲ開キマシテ動員計畫ノコトニ付キマ
シテ本法ニ關係スル範圍ニ於キマシテ詳細
ニ御説明ヲ承ツタラ如何カト思ヒマスガ如何
デゴザイマセウカ

云フノハ、成ルベク祕密會ト云フモノハ御
開キニナラヌ方ガ宜カラウト私ハ思ッテ居
リマス、ト云フノハ、私ハ度々サウ云フ經
驗ガアルノデス、詰リ折角色々政府カラ説
明ヲサレタリ、ソレカラ議員カラ意見ヲ述
ベタリシタコトガ少シモ議會ノ記録ニ殘ッ
テ居ラナイノデス、サウスルトドウ云フ譯
デ一體是ガ贊成サレタカトカ、ドウ云フ譯
デ反對サレタカト云フコトハ丸切り議會ノ
記録ニ殘ラナイ譯デスカラ、私ハ絕對トハ
言ヒマセヌガ、成ルベク祕密會ヲ御開キニ
ナラナイヤウニ御願ヒ致シタイト思ヒマス、
ソレデ、今是カラ御話ニナルコトハ出來ル
限りハ此ノ速記録ニ殘ルヤウニシテ、ドウ
シテモイカヌト云フ部分ダケ成ルベク制限
サレルコトヲ希望致シマス

○委員長(子爵渡邊千冬君) 伊澤君ニ申上
ゲマスガ、速記ヲ止メナケレバ話ヲスルコ
トガ出來ナイコトガ多々アルカラ、ソレヲ
希望スルナラバ速記ヲ止メテ話シタイト云
フ政府ノ内意モアルノデスガ、其ノコトヲ
私ハ申上ゲタノデス

○伊澤多喜男君 成ルベク……ソレヲ成ル
ベク少クシタイ、斯ウ云フ私ハ希望ヲ述ベ
テ置キマス

○委員長(子爵渡邊千冬君) 皆サンニ御諮

リ致シマスガ、伊澤君ノ御趣意トシテハ成
ルベク速記ニ留メルヤウニシタイト云フ御
希望ガアルノデスガ、是モ一應ノ道理アル
コトト思ヒマス、併シナガラ事ガ動員ニモ
關係シ、法律ニモ規定スルコトガ出來ナイ
ト云フ程ノコトヲ、強ヒテ速記ヲ置イテ政
府ノ説明ヲ求メマシタナラバ、説明ガ不十
分ニナル虞ガアリハシナイカト思ヒマシテ、
私ハ先刻政府ノ詳細ナル説明ヲ祕密會又ハ
懇談會ニ於テ承リタイト云フコトヲ申シタ
ノデアリマスガ、若シ諸君ニ於テソレデモ
速記ヲ附ケテ聽キタイト云フ御話デアリマ
シタナラバ左様致シテモ宜シイノデスガ、
如何デスカ

○伊澤多喜男君 私ハサウ云フコトヲ申シ
テ居リマセヌ、絶對ニイカヌト云フコトハ
申シテ居リマセヌ、絶對ニイカヌト私ハ無
論申シテ居リマセヌ

○山岡萬之助君 如何デセウ、懇談若シク
ハ其ノ他ノコトガ必要ダラウト云フ委員長
ノ御考ヘダラウト思ヒマスガ、只今伊澤君
ノ御話モアリ、モウ少シ輪郭ヲ明カニシテ、
サウシテ分ラナイモノガアリトスレバ、其
ノ點ヲ詳細ニ伺フト云フコトデ、モウ少シ
御進メ願ツタラ如何デアラウカ、委員長ノ御
考ハ結構ダト思ヒマスケレドモ……

○大島健一君 私ハ結構ト思ヒマス、伊澤
君ノ言ハレルノモ能ウ分リマス、元來此處
ノ質問應答ハ此ノ法案ノ解釋ノ上ニ非常ナ
有力ナル參考トナルベキモノデ、之ヲ殘シ
テ置キタイト言ハレル伊澤君ノ言ハ御尤
モト思ヒマス、此ノ會議ノ有力ナ速記ヲ殘
シテ將來此ノ法案ヲ解釋スル場合ノ參考ニ
供スルモ必要ト思ヒマス、ソレカラ只今委
員長ノ仰シタルノハ、政府ガ祕密會ナラ話
セルコトガアルカラ、ソレデ祕密會デ話セ
バ、モノヲ探ルヤウナ質問デナシニ、ザック
バラシニ話シシテ、短時間ニ能ク分ルト云
フヤウニスル、サウシテ眞ニ軍事機密、祕
密ニ關スルモノダケヲオヤリニナルト云フ
ノハ至極結構ダラウト思ヒマス

○伊澤多喜男君 私ハ斯様ナコトヲ申シマ
スルノハ、自分ノ二十年間ノ議員生活ニ
於キマシテ度々實ハ遭遇シタコトナンデア
リマス、其ノ一番著シイ例ハ、例ノ社會運
動取締法案ト云フモノガ出マシタ時ニ、私
ハ其ノ特別委員トシテ之ニ列シマシタ、サ
ウシテ私ハ殆ド一人デ分ラヌコトヲ頻ニ質
問シマシタガ、處ガ大切ノ場合ニナルト云
フト、直チニ實ハ政府ノ方カラ要求シテ、
サウシテ祕密會ニ移シタノデアリマス、ソ
レデ少シ詳シク述べマスレバ、二十何日實

ハ掛カッタノデアリマスガ、今日其ノ記錄ヲ
見マスト云フト、殆ド何ヲ言ッテ居ルカマル
デ書イテナイノデアリマス、ソレデ一體ド
ウ云フソコニ論議ガアッタノカト云フコト
ガ殆ド分ラナイノデアリマス、是ハ最モ著
シイ例デアリマスケレドモ、其ノ過激社會
運動取締法案ト云フノハ、大分ヤカマシイ
法案デアリマシテ、サウシテ最初ハ九人ノ
委員ニ付託サレマシタガ、ソレデ私ハ其ノ
一人ニ加ッテ出テ、サウシテ頻ニ質問シマシ
タ、デ、彼此二十何日ノ間掛カッタト思ヒマ
スガ、ソレカラシテドウナツタカト云フト、
八對一デ、即チ伊澤多喜男一人ガ大體ノ反
對論ヲ唱ヘマシテ、委員ノ八人ノ諸君ガ大
體原案ニ賛成ナスツタ、處ガソレガ本會議ニ
出マシテドウ云フ結果ニナツタカト云フト、
少クトモ此ノ貴族院ノ典例ニ於テハ、極ク
ソレニ似寄ツタ典例ハアリマスケレドモ、明
治二十四年カ五年ニ一ツノ典例ガアリマ
スルガ、非常ニ珍シイコトガアッタノデアリ
マス、ドウ云フコトカト云フト、今ノ通り
特別委員會ガ八對一デ可決シタ法案ヲ、又
本會議ニ於テカラニ、此ノ九人ノ委員ニ又
六人ノ委員ヲ加ヘマシテ、サウシテ十五人
ノ委員ニ付託シマシテ、再審ヲ致シタノ
デアリマス、ソレカラ又私ハ矢張り、無論

委員デアリマスカラ、ソレヘ出テ色々マア
論議シマシタ其ノ結果ハドウカ云フト、詰
リ十四對一デ私ハ破レマシタ、處ガソレガ
愈……ソレニ又私ハ十四對一デ破レテサウ
シテ本會議ニ出テ來マシタ、本會議デ私ハ
之ニ對シテ無論反對論ヲ唱ヘマシタ、其ノ
結果ハドウナツタカ、ソレハ多分議會ノ最初
ノ日デアッタト思ヒマスガ、衆議院ニ之ヲ送
リマシテ、サウシテ衆議院デハ之ヲ議了ス
ルコトガ出來ズニ、此ノ過激社會運動取締
法案ト云フモノガ葬ラレタノデアリマス、
其ノ時ノ記錄ト云フモノヲ今ニシテ見テ見
マスト云フト、殆ド大強分ハ所謂祕密會デ、
サウシテ何ヲ言ッテ争ツタカト云フコトガ甚
ダ不明瞭ナンデス、デ、此ノ事柄ハ最モ著
シイ例デアリマスケレドモ、サウ云フコト
ガ私ハ度々アリマスカラシテ、成ルベクデ
ス、成ルベク祕密會ヲ御開キニナルコトヲ
止メ、サウシテ御開キニナツ場合ハ祕密
ヲ要スルコトダケニ止メテ、成ルベクナラ
バ他ノ部分ハ速記ニ御殘シニナルヤウニ御
願ヒ致シタイ、私ハ只今申シタヤウニ、絶
對ニ祕密會ハイカヌト云フヤウナ、ソナ
野暮臭イコトヲ申シテ居ルノデアリマセ
ヌカラ、ドウゾサウ云フ風ニ御承知ヲ願ヒ
マス

○委員長(子爵渡邊千冬君) 改メテ御諮ヲ

致シマスガ、陸軍大臣ハ只今御出席ニナリ
マシタガ、四時ニハ衆議院ノ本會議ガアル
爲ニ退席サレルサウデアリマス、私ハ陸軍
大臣ガ御出席ニナッテ居リマス此ノ機會ニ
政府委員ヨリ詳細ナ動員計畫其ノ他ニ付テ、
祕密會デナケレバ述ベラレナイ事項ニ付テ
御説明ヲ願ツタ方ガ便宜カト思ヒマス、サウ
シテ其ノ説明ニ付テ御不審ノ點ガアリマシ
タナラバ、陸軍大臣ナリ政府委員ナリニ御
質問ニナツタナラバ如何カト思ヒマス、伊澤
君ノ御趣意モ、委員長ハ能ク了解致シマシ
タ、此ノ際御異議ガナケレバ左様致シタイ
ト思ヒマスガ、如何デアリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(子爵渡邊千冬君) ソレデハ左様
ニ致シマス、速記中止……

午後二時五十一分速記中止

午後四時三分速記開始

○委員長(子爵渡邊千冬君) 速記開始、外

ニ御質問ガナケレバ本日ハ此ノ程度デ散會
致シタイト思ヒマス、明日ハ午前十時カラ
開會致シマス

午後四時四分散會

出席者左ノ如シ

委員長 子爵渡邊 千冬君

副委員長 男爵大井 成元君

委員 公爵島津 忠承君

侯爵四條 隆愛君

侯爵井上 三郎君

伯爵二荒 芳徳君

子爵青木 信光君

子爵曾我 祐邦君

子爵岡部 長景君

大島 健一君

水野鍊太郎君

男爵紀 俊秀君

伊澤多喜男君

塚本 清治君

山川 端夫君

白根 竹介君

男爵渡邊 汀君

黑崎 定三君

男爵伊江 朝助君

竹越與三郎君

山岡萬之助君

松村 義一君

金杉英五郎君

山隈 康君

國務大臣

內閣總理大臣 公爵近衛 文麿君

政府委員

司法大臣 鹽野 季彦君
陸軍大臣 杉山 元君

法制局參事官 森山 銳一君

企畫院總裁 瀧 正雄君

企畫院次長 青木 一男君

企畫院部長 植村甲午郎君

同 横山 勇君

企畫院書記官 内田源兵衛君

外務省調查部長 米澤 菊二君

大藏書記官 尾關 將玄君

陸軍中將 山脇 正隆君

海軍參與官 岸田 正記君

海軍少將 井上 成美君

司法政務次官 久山 知之君

司法省刑事局長 松阪 廣政君

司法省調查部長 井上 登君

文部參與官 池崎 忠孝君

文部省實業學務局長 小笠原豐光君

拓務參與官 伊禮 肇君

拓務省管理局長 棟居 俊一君

厚生省勞働局長 成田 一郎君

厚生書記官 近藤壤太郎君